

平成 2 7 年度

三戸町教育委員会の事務の管理及び
執行状況の点検評価に関する報告書

－平成 2 7 年度事業の点検評価－

三戸町教育委員会

目 次

◇ 点検・評価の概要	1
◇ 平成27年度三戸町教育基本方針	3
◇ 平成27年度施策別主要事業一覧表	10

◇ 施策分野ごとの重点項目に関する点検及び評価

1 教育環境の整備促進等

重点項目	点検評価の対象事業	頁
(1)小中一貫教育体制の充実と学校建設	ア 小中一貫教育学校建設事業	12
	イ 小中一貫教育学校建設推進委員会	13
	ウ 小中一貫教育推進委員会	13
(2)就学支援等の充実	エ 要保護・準要保護児童生徒就学援助事業	14
	オ 特別支援教育就学奨励事業	15
	カ 奨学金貸与事業	15
	キ 私立幼稚園就園奨励費補助事業	16
(3)教育活動支援のための補助事業の充実	ク 児童生徒全国大会等派遣費補助事業	16
	ケ 教育振興協議会支援事業	17
	コ 学校保健会補助事業	17
	サ 中学生芸術文化活動補助事業	18
(4)その他教育環境の充実	シ スクールバス等運行事業	18
	ス 部活バス・部活支援バス運行事業	19
	セ 児童・生徒・教職員健康診断及び就学時健診	19
	ソ 学校評議員設置事業	20
	タ 学習習慣形成事業（学習コーチ事業）	20
	チ 三戸町立学校給食共同調理場運営	22

2 学校教育指導の重点

重点項目	点検評価の対象事業	頁
(1)小中一貫教育の推進	ア 小中一貫教育授業交流発表会	23
	イ 小中一貫教育学習指導部会	24
	ウ 三戸町学校教育研究大会	24
	エ 小中一貫・中高連携教育支援事業（三教研）	25
	オ 小中乗り入れ授業実施	25
(2)授業の充実	カ 小中一貫教育学習指導部会（再掲）	27

(3) 立志科の充実	キ 立志科推進事業補助金交付事業	27
(4) 体育健康教育の充実	ク 基本的な生活習慣（生活リズム）講演事業	28
	ケ 栄養教諭による食の出前授業	29
(5) 生徒指導の充実	コ 生活習慣改善による不登校対策事業	30
	サ 学級経営研修講座（三教研）	31
	シ 学校生活満足度（Q-U）調査（三教研）	31
	ス 教育相談室運営（三教研）	32
	セ 不登校等連絡会議（三教研）	32
(6) キャリア教育の推進	ソ 立志科推進事業補助金交付事業（再掲）	33
(7) 特別支援教育の充実	タ 小中一貫教育チューター設置事業	34
	チ 就学指導委員会（三教研）	34
	ツ 特別支援教育コーディネート事業	35
(8) 環境教育の推進	テ 立志科推進事業補助金交付事業（再掲）	36
(9) 国際化に対応する教育の推進	ト 外国語指導助手（ALT）招致事業	37
	ナ 英語能力判定テスト	37
	ニ 中学生海外派遣事業	38
(10) 情報化に対応する教育の推進	ヌ 情報教育支援員設置事業	39
(11) 安全・安心な学校環境づくりの推進	ネ 学校施設・設備整備	40
	ノ 日本スポーツ振興センター災害共済給付事業	41
	ハ 緊急時児童搬送タクシー運行事業	41
(12) 教員研修の充実	ヒ 校内研修等講師派遣補助事業（三教研）	42
	フ 教育相談研修講座（三教研）	42
(13) 複式教育の充実	ヘ 複式授業研修（三教研）	43

3 社会教育指導の重点

重点項目	主 要 事 業	頁
(1) 一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	ア 公民館講座	44
	イ 公民館分館講座委託事業	44
	ウ 子ども公民館講座	46
	エ 三戸町立図書館歴史講座	46
	オ わくわく城山楽園体験スクール	47
	カ 高齢者学級寿教室	48
	キ 公民館まつり開催事業	49
(2) 次代を担う青少年の育成	ク ふれあい活動事業	49
	ケ さんのへ農業小学校支援事業	50
	コ 三戸町子ども会育成連絡協議会支援事業	50
	サ 成人式開催事業	51
(3) 地域を支える人材の育成	シ 三戸町人材活用講師派遣事業	51

(4) 学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上	ス 家庭教育学級開催事業	5 2
	セ 放課後子ども教室推進補助事業	5 3
	ソ 三戸町少年指導センター運営事業	5 3
	タ 青少年健全育成三戸町民会議運営事業	5 4
(5) 社会教育推進のための基盤整備	チ 三戸町中央公民館管理運営	5 5
	ツ 社会教育関係団体補助事業	5 5
	テ サークル活動への支援	5 6
	ト 三戸町立図書館の運営	5 6
(6) 生涯スポーツの振興	ナ 総合優勝制町内対抗スポーツ大会	5 7
	ニ 町民歩け歩け運動	5 7
	ヌ 三戸町スポーツ賞表彰	5 8
	ネ 各種スポーツ大会補助事業	5 8
	ノ 三戸町体育協会支援事業	5 9
	ハ スポーツ団体等大会出場助成事業	6 0
	ヒ スポーツ指導者の養成・活用	6 0
	フ 勤労者体育施設管理運営（武道館・サンスポ）	6 1
	ヘ スポーツ少年団の育成支援	6 1
	ホ 体育館等管理運営（町民体育館・松原運動公園）	6 2
	マ アップルドーム管理運営	6 2
(7) 芸術・文化活動の充実と文化財の保存	ミ 三戸町立版画工房運営	6 3
	ム 芸術文化団体等補助事業	6 3
	メ 三戸町文化賞表彰	6 4
	モ 三戸城跡発掘調査事業	6 4
	ヤ 歴史民俗資料館運営	6 5
	ユ 地域学習サポート事業	6 5

点検・評価の概要

1. 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされています。

この法律を受け、三戸町教育委員会では、平成27年度における教育に関する事務の点検及び評価を実施し、その結果を報告書としてまとめました。

2. 点検・評価の方法

(1) 三戸町教育基本方針

三戸町教育委員会では、平成27年4月に策定した平成27年度三戸町教育基本方針に定める学校教育指導の方針と重点及び社会教育指導の方針と重点に基づき各種事業を実施しています。

(2) 点検・評価の対象

点検・評価にあたっては、別添「平成27年度施策別主要事業一覧表」の3つの施策分野ごとに掲げる重点項目を推進するための主要事業（83事業（再掲含む））を点検・評価の対象としました。

(3) 学識経験者（外部評価委員）の知見の活用

点検・評価の客観性を確保するため、学識経験者を「外部評価委員」として委嘱し、点検・評価の実施方法や内容について意見をいただき、これを参考に報告書を作成しました。

○外部評価委員

氏 名	役 職 等
佐藤正昭	青森公立大学理事（十和田市）
寺尾 治	元三戸北小学校校長（三戸町）

3. 評価報告書の作成

評価報告書は、主要事業（83事業）ごとに、（1）事業の概要、（2）事業実績、（3）成果と課題、（4）事業の方向性の記述により作成しています。

4. 平成27年度点検・評価作業の経過

○外部評価委員会議（H28.3.14）

- ①平成27年度評価に係る実施要綱の確認
- ②平成26年度の点検・評価に付された外部評価委員の意見に対する平成27年度当初の取組についての説明
- ③点検・評価の報告書の作成方法についての確認
- ④点検・評価作業日程についての確認

- 外部評価委員による評価のための事業調査（随時）
- 教育委員会事務局職員による事業評価シートの作成（H28.2～3）
- 三戸町教育委員会へ報告書提出（H28.5.23）

5. 評価報告書の公表

評価報告書は、三戸町役場ホームページに掲載し公表します。

参考

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十七条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

平成 27 年度三戸町教育基本方針

【 教育施策の方針 】

三戸町教育委員会は、郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く人づくりを目指し、夢や志の実現に向け、知・徳・体を育む小中一貫教育を推進します。

また、学校教育と社会教育とが一体となり、誰でも生涯を通じて主体的に学ぶことができる生涯学習社会の実現を図ります。

そして学校、家庭、地域社会が教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携・協力に努め、個性豊かでうるおいのある教育を推進します。

【平成 27 年度三戸町学校教育指導の方針と重点】

1 方 針

郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く児童生徒を育成するため、教育は人づくりという視点に立って、学校運営に創意工夫をこらし、夢や志の実現に向け、知・徳・体を育む小中一貫教育の推進に努める。

2 重 点

(1) 小中一貫教育の推進

義務教育の 9 年間を見通し、子どもの発達段階と学習の連続性を重視した小中一貫教育を積極的に推進する。

ア 心豊かでたくましい児童生徒の育成のための小・中学校義務教育 9 年間を見通した学力観、指導観の確立

イ 児童生徒が、将来社会の一員として生きていくために必要となる基礎的な知識や技能の育成

ウ 確かな学力の確立と、豊かな心を育むための 9 年間を見通した教育課程の編成と実践

(2) 授業の充実

一人一人の子どもが、各教科及び立志科等の学習の時間に主体的に取り組み、確かな学力を身に付けることができるよう、言語活動の充実を図りながら、一人一人の能力・適正に応じた指導と学習習慣の育成に努める。

ア 基礎的・基本的内容に即した教材の工夫と教材研究の深化

イ 個に応じた学習過程と評価を重視した指導の工夫

ウ 自ら課題を見つけ、よりよく問題を解決する力を身に付ける指導の工夫

エ 主体的・体験的な学習のための環境づくりの充実

(3) 立志科の充実（道徳・特別活動・総合的な学習の時間を融合した教科）

一人一人の子どもが、豊かな心を持ち人間としての生き方あり方を自覚し、将来に向けてたくましく、主体的な行動ができる人間形成を目指し、その資質や能力の育成に努める。

ア 立志科授業の指導工夫と研究

イ 一人一人が義務と責任を果たし、協力し合う体験活動の推進

ウ 伝統文化や自然環境など郷土に関する教材の開発

(4) 体育、健康教育の充実

一人一人の子どもが、生涯を通して自ら進んで体育・スポーツに親しみ健康、安全で活力ある生活を送ることができるよう、健康でたくましい体をはぐくむ教育の推進に努める。

- ア 運動の習慣化を図る指導の充実
- イ 生活リズムの確立のため「早寝早起き朝ごはん」運動の充実
- ウ 食に関する正しい知識と望ましい食習慣の指導の充実

(5) 生徒指導の充実

一人一人のこどもが、人間の尊厳という観点に立ち、教育活動全体を通して、豊かな生活を送ることができるよう、家庭や地域社会及び関係機関との連携を図りながら、心の結びつきを基調とした指導を行うとともに問題行動等の未然防止、早期発見、早期対応に努める。

- ア 基本的な生活習慣を育成する指導体制の充実
- イ 生徒指導の分析調査を生かした学年・学級経営の充実
- ウ 児童理解・生徒理解に基づいた教育相談の充実

(6) キャリア教育の推進

一人一人の子どもが、自らの生き方を考え、社会的・職業的自立ができるよう必要な基盤となる資質、能力、態度の育成に努める。

- ア 立志科におけるキャリア教育指導体制の整備・充実
- イ 9年間を見通した将来の生き方指導・進路指導の充実
- ウ 児童生徒の発達の段階に応じた勤労観・職業観の育成

(7) 特別支援教育の充実

発達障害を含む障害のある子どもが、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するとともに、そのもてる力を最大限に発揮して自立や社会参加ができるよう、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援に努める。

- ア 校内支援体制の整備・充実
- イ 小中一貫教育特別支援教育学習指導指針の活用
- ウ インクルーシブ教育の推進
- エ 交流及び共同学習による相互理解の促進

(8) 環境教育の推進

一人一人のこどもが、身近な環境や環境問題に関心を持ち、人間と環境とのかかわりについて理解を深め、環境の保全やよりよい環境づくりのために、環境問題に主体的に取り組む態度や実践力の育成に努める。

- ア 立志科における地域の環境の実態に即した指導の工夫
- イ 地域の環境にかかわる体験的学習の推進

(9) 国際化に対応する教育の推進

一人一人の子どもが、国際社会で主体的に生きる日本人としての基礎的資質を養うため、人間尊重の精神を基盤として、我が国や諸外国の文化と伝統について

関心と理解を深めるとともに、国際社会に貢献できるよう、国際理解教育の充実に努める。

ア 異文化に対する理解やそれを尊重する態度の育成

イ 英語によるコミュニケーション能力の育成のため、A L T（外国語指導助手）をはじめとするネイティブスピーカーの人材を活用した英語科（小学校）の推進

（１０）情報化に対応する教育の推進

一人一人の子どもが、情報活用能力を身に付けることができるよう、情報モラルにかかわる指導の充実を図り、系統的・体系的な情報教育の推進に努める。

ア 立志科を中心とした情報教育を推進する指導体制の整備・充実

イ 学習指導におけるＩＣＴの適切な活用

ウ 家庭や地域社会と連携した情報モラルに関する指導の推進

（１１）安全・安心な学校環境づくりの推進

一人一人の子どもが、安全で安心して学習できる学校環境づくりため、学校への不審者の侵入などに備えた、学校、家庭、地域とが連携した取り組みの充実に努める。

ア 学校警察連絡協議会等における情報交換や関係機関との連携・協力の推進

イ 学校施設・設備保全の推進

ウ 防災・防犯等安全教育の充実

（１２）教員研修の充実

教員が教育公務員としての使命と責任を自覚し、豊かな人間性、広い社会性、深い専門性を身に付け充実した教育活動を実践することができるよう、教員に対する計画的、積極的な研修の推進に努める。

ア 校内研修体制の整備・充実

イ 学校の教育課題解決のための実践的研究の充実

ウ 地域と連携した特色ある教育活動の研究・推進

エ 学習指導要領、三戸町小中一貫教育要領に基づく実践的研究の充実

（１３）複式教育の充実

少人数の特性を生かし、一人一人の個性・能力の伸長を図るとともに、社会性の育成に努める。

ア 学校運営・学級経営の創意工夫

イ 複式指導の充実

ウ 複式授業研修の充実

【平成27年度三戸町社会教育指導の方針と重点】

1 方 針

町民が、生涯にわたって自己の啓発・向上を目指し、生きがいのある充実した生活を送るとともに、人と人とのつながりを大切にする豊かで住みよい地域社会をつくり出すことができるよう、一人一人の生涯にわたる学習と社会参加を実現する社会教育の推進に努める。

2 重 点

(1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成

多様な体験活動機会の充実を図り、心豊かでたくましい青少年の育成に努める。

ア 青少年の体験活動の充実

(ア)「さんのへ農業小学校」の支援

(イ)町内子ども会、三戸町子ども会育成連絡協議会の活動支援

(ウ)異世代・異年齢交流事業の推進

イ 地域が支えるキャリア教育の充実

(ア)「ナナメ」の関係づくりを意識した学習機会の推進（子ども会活動）

(イ)ふるさと意識を醸成する場の拡充（芸能保存会等補助団体事業）

(ウ)キャリア教育の推進（出前授業・職場体験）

ウ 子どもの読書活動の充実

(ア)読み聞かせボランティアグループの育成と支援

(イ)読書活動推進のための啓発と情報提供

エ 地域全体で子どもを育む活動の充実

(ア)地域住民と子どもをつなぐ実践の場の工夫（ふれあい活動）

(イ)子どもの健全な育成に向けての住民の意識や目的の共有化を図る工夫(放課後子ども教室推進事業)

(ウ)青少年健全育成三戸町民会議との連携

(エ)三戸町少年指導センターとの連携

オ 家庭教育支援の充実

(ア)「三戸町家庭教育学級」事業の充実

(イ)三戸町連合父母と教師の会との連携

(2) 活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成

地域活動の実践者、指導者やコーディネーター等のネットワークづくりに努める。

ア 地域活動の実践者の育成

イ 地域活動の指導者、コーディネーターの養成

ウ 地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援

(3) 一人一人の主体的な学習と社会参加の推進

町民一人一人の主体的な学習を推進するとともに、学習の成果を地域で生かすこ

とができるよう、社会参加活動の支援の充実に努める。

ア 関係機関との連携による多様な学習機会の支援

(ア) 中央公民館講座、分館講座、歴史講座、高齢者学級寿教室の開講

(イ) 大学との連携による講演会及び学習会（園・保育所・学校の保護者対象）の開催

(ウ) 「子ども公民館講座」の開講

(エ) 「わくわく城山楽園」の開設

イ 学習成果を生かした社会参加活動の支援

(ア) 学びの成果を生かす機会の拡充と積極的な活用

(イ) 広域的な情報収集とコーディネート機能の拡充

（４）社会教育推進のための基盤整備

生涯学習活動の拠点となる社会教育施設の機能充実及び活用促進に努める。

ア 社会教育推進体制の充実

(ア) 事業評価の充実

(イ) 県及び他市町村の学習情報の収集・提供

イ 社会教育施設の機能の充実と活用の促進

(ア) 利用者の視点に立った環境の工夫

(イ) 町民の学習ニーズの把握

ウ 社会教育関係職員の養成と資質の向上

(ア) 研修等への積極的参加

(イ) 社会教育主事講習への計画的派遣

エ 社会教育関係団体等の活動の支援

(ア) 社会教育関係団体等事業の支援

(イ) 自主グループ・サークルの活動支援

（５）生涯スポーツの振興

幅広い層の町民が、健康で明るく豊かな生活を送ることができるよう、スポーツに親しむ機会の拡大に努める。

ア 地域スポーツの推進

(ア) 総合型地域スポーツクラブの支援

(イ) 各種スポーツ大会の開催及び大会へのニュースポーツの導入

(ウ) 三戸町体育協会との連携

イ スポーツに関わる人材の養成と活用

(ア) スポーツ推進委員の研修等への積極的参加

(イ) スポーツ推進委員の専門性を活かす場の拡充

ウ スポーツ活動推進のための環境整備と活用の促進

(ア) 利用者の視点に立った環境の工夫

(イ) 町民のスポーツニーズの把握

（６）芸術・文化活動の充実と文化財の保存

芸術・文化活動に親しむ多様な機会の提供並びに文化財の適切な保存とその活用に努める。

ア 芸術・文化活動機会の充実

- (ア) 三戸町立版画工房の運営
- (イ) 町内の芸術・文化関係団体等との連携

イ 後継者育成支援、発表機会の充実

- (ア) 後継者育成事業の推進
- (イ) 三戸町文化協会、三戸町民俗芸能保存会との連携
- (ウ) 発表機会の充実

ウ 文化財の保存及び活用

- (ア) 文化財の保護と保存の推進
- (イ) 文化財の調査、研究及び指定の推進
- (ウ) 三戸城跡の考古学的調査及び保護・活用の推進
- (エ) 三戸町立歴史民俗資料館における展示及び教育普及の充実

◇平成２７年度 施策別主要事業一覧表

分野	重点項目	細 目	主 要 事 業
1 教 育 環 境 の 整 備 促 進 等	(1)小中一貫 教育体制の充 実と学校建設		ア 小中一貫教育学校建設事業
			イ 小中一貫教育学校建設推進委員会
			ウ 小中一貫教育推進委員会
	(2)就学支援 等の充実		エ 要保護・準要保護児童生徒就学援助事業
			オ 特別支援教育就学奨励事業
			カ 奨学金貸与事業
			キ 私立幼稚園就園奨励費補助事業
	(3)教育活動 支援のための 補助事業の充 実		ク 児童生徒全国大会等派遣費補助事業
			ケ 教育振興協議会支援事業
			コ 学校保健会補助事業
			サ 中学生芸術文化活動補助事業
	(4)その他教 育行政の推進		シ スクールバス等運行事業
			ス 部活バス・部活支援バス運行事業
			セ 児童・生徒・教職員健康診断及び就学時健診
			ソ 学校評議員設置事業
			タ 学習習慣形成事業（学習コーチ事業）
			チ 三戸町立学校給食共同調理場運営
2 学 校 教 育 指 導 の 重 点	(1)小中一貫 教育の推進	①心豊かでたくましい児童生徒の育成のための小・中学校義務教育９年間 を見通した学力観、指導観の確立 ②児童生徒が、将来社会の一員として生きていくために必要となる基礎的 な知識や技能の育成 ③確かな学力の確立と、豊かな心を育むための９年間を見通した教育課程 の編成と実践	ア 小中一貫教育授業交流発表会
			イ 小中一貫教育学習指導部会
			ウ 三戸町学校教育研究大会
			エ 小中一貫・中高連携教育支援事業（三教研）
			オ 小中乗り入れ授業実施
	(2)授業の充 実	①基礎的・基本的内容に即した教材の工夫と教材研究の深化 ②個に応じた学習過程と評価を重視した指導の工夫 ③自ら課題を見つけ、よりよく問題を解決する力を身に付ける指導の工夫 ④主体的・体験的な学習のための環境づくりの充実	カ 小中一貫教育学習指導部会（再掲）
	(3)立志科の 充実	①立志科授業の指導工夫と研究 ②一人一人が義務と責任を果たし、協力し合う体験活動の推進 ③郷土の伝統文化、自然環境に関する教材の開発	キ 立志科推進事業補助金交付事業
	(4)体育、健康 教育の充実	①運動の習慣化を図る指導の充実 ②生活リズムの確立のため「早寝早起き朝ごはん」運動の充実 ③食に関する指導の充実	ク 基本的生活習慣（生活リズム）講演事業
			ケ 栄養教諭による食の出前授業
	(5)生徒指導 の充実	①基本的な生活習慣を育成する指導体制の充実 ②生徒指導の分析調査を生かした学年・学級経営の充実 ③児童理解・生徒理解に基づいた教育相談の充実	コ 生活習慣改善による不登校対策事業
			サ 学級経営研修講座（三教研）
			シ 学校生活満足度（Ｑ－Ｕ）調査（三教研）
			ス 教育相談室運営（三教研）
			セ 不登校等連絡会議（三教研）
	(6)キャリア 教育の推進	①立志科におけるキャリア教育指導の整備・充実 ②９年間を見通した将来の生き方指導・進路指導の充実 ③児童生徒の発達の段階に応じた勤労観・職業観の育成	ソ 立志科推進事業補助金交付事業（再掲）
	(7)特別支援 教育の充実	①校内特別支援体制の整備・充実 ②小中一貫教育の特別支援教育学習指導指針の活用 ③関係機関との連携した特別支援教育の充実	タ 小中一貫教育チューター設置事業
			チ 就学指導委員会（三教研）
			ツ 特別支援教育コーディネート事業
	(8)環境教育 の推進	①立志科における地域の環境の実態に即した指導の工夫 ②地域の環境にかかわる体験的学習の推進	テ 立志科推進事業補助金交付事業（再掲）
	(9)国際化に 対応する教育 の推進	①異文化に対する理解やそれを尊重する態度の育成 ②英語によるコミュニケーション能力の育成のため、ＡＬＴ（外国語指導 助手）をはじめとするネイティブスピーカーの人材を活用した英語科（小 学校）の推進	ト 外国語指導助手（ＡＬＴ）招致事業
			ナ 英語能力判定テスト
			ニ 中学生海外派遣事業
	(10)情報化に 対応する教育 の推進	①立志科を中心とした情報教育を推進する指導体制の整備・充実 ②学習指導におけるコンピューター等デジタル機器の適切な活用	ヌ 情報教育支援員設置事業
	(11)安全・安 心な学校環境 づくりの推進	①地域子ども安全委員会や学校安全ボランティアの充実 ②学校施設・設備保全の推進	ネ 学校施設・設備整備
			ノ 日本スポーツ振興センター災害共済給付事業
			ハ 児童生徒緊急搬送タクシー運行事業
	(12)教員研修 の充実	①校内研修体制の整備・充実 ②学校の教育課題解決のための実践的研究の充実 ③地域と連携した特色ある教育活動の研究・推進 ④学習指導要領、三戸町小中一貫教育要領に基づく実践的研究の充実	ヒ 校内研修等講師派遣補助事業（三教研）
			フ 教育相談研修講座（三教研）
	(13)複式教育 の充実	①学校運営・学級経営の創意工夫 ②複式指導の充実	ヘ 複式授業研修（三教研）

分野	重点項目	細目	主 要 事 業
3 社 会 教 育 導 の 重 点	(1)一人一人 の主体的な学 習と社会参加 の推進	①生涯各時期に応じた多様な学習機会の提供 ②学習成果を生かした社会参加活動の支援	ア 公民館講座
			イ 公民館分館講座委託事業
			ウ 子ども公民館講座
			エ 三戸町立図書館歴史講座
			オ わくわく城山楽園体験スクール
			カ 高齢者学級寿教室
			キ 公民館まつり開催事業
	(2)次代を担 う青少年の育 成	①青少年の体験活動の充実 ②青少年のキャリア形成の支援（青森県事業の活用） ③子どもの読書活動の充実（青森県事業の活用）	ク ふれあい活動事業
			ケ さんのへ農業小学校支援事業
			コ 三戸町子ども会育成連絡協議会支援事業
			サ 成人式開催事業
	(3)地域を支え る人材の育成	①地域活動の実践者の育成（青森県事業の活用） ②地域活動の指導者、コーディネーターの養成（青森県事業の活用）	シ 三戸町人材活用講師派遣事業
	(4)学校・家 庭・地域の連 携による社会 全体の教育力 の向上	①学校と地域の協働による教育活動の充実（青森県事業の活用） ②家庭教育支援の充実 ③地域全体で子どもを育むための体制の充実	ス 家庭教育学級開催事業
			セ 放課後子ども教室推進補助事業
			ソ 三戸町少年指導センター運営事業
			タ 青少年健全育成三戸町民会議運営事業
	(5)社会教育 推進のための 基盤整備	①社会教育推進体制の充実 ②社会教育施設の機能の充実と活用の促進 ③社会教育関係職員の養成と資質の向上 ④社会教育関係団体等の活動の支援	チ 三戸町中央公民館管理運営
			ツ 社会教育関係団体補助事業
			テ サークル活動への支援
			ト 三戸町立図書館の充実
	(6)生涯スポー ツの振興	①地域スポーツの推進 ②スポーツに関わる人材の養成と活用 ③スポーツ活動推進のための環境整備と活用の促進	ナ 総合優勝制町内対抗スポーツ大会
			ニ 町民歩け歩け運動
			ヌ 三戸町スポーツ賞表彰
			ネ 各種スポーツ大会補助事業
			ノ 三戸町体育協会支援事業
			ハ スポーツ団体等大会出場助成事業
			ヒ スポーツ指導者の養成・活用
			フ 勤労者体育施設管理運営（武道館・サンスポ）
			ヘ スポーツ少年団の育成支援
			ホ 体育館等管理運営（町民体育館・松原運動公園）
			マ アップルドーム管理運営
	(7)芸術・文化 活動の充実と 文化財の保存	①芸術・文化活動機会の充実 ②後継者育成支援、発表機会の充実 ③文化財の保存及び活用	ミ 三戸町立版画工房運営
			ム 芸術文化団体等補助事業
			メ 三戸町文化賞表彰
			モ 三戸城跡発掘調査事業
			ヤ 歴史民俗資料館運営
			ユ 地域学習サポート事業

1. 教育環境の整備促進等

(1) 小中一貫教育体制の充実と学校建設

〔ア〕 小中一貫教育学校建設事業					
事業の概要	◆目的 三戸中学校の校舎老朽化に伴う改築課題の解決と学習指導上の課題解決のための校舎一体型の小中一貫教育を実施するため、現在の三戸小学校及びその周辺の敷地に三戸地区小中一貫教育学校の校舎、体育館、屋外運動施設その他施設を建設する。 ◆事業費 213,650千円 (起債200,200千円、一般13,450千円)				
実績	◆ 町民プール建設工事 195,480千円 旧三戸中学校プール解体工事 8,826千円 町民プール建設工事監理業務 8,640千円 旧三戸中学校プール解体工事設計監理業務 486千円 町民プール建設工事建築確認手数料 218千円				
成果と課題	◆成果 ・町民プール建設工事と旧三戸中学校プール解体工事を行い完成した。 ・町民プール建設工事は、隣接した駐車場や屋外運動場を使用しながらの工事施工であったが、学校の連携協力により教育活動に支障をきたすことなく、安全に完了することができた。 ・旧三戸中学校プール解体工事は、近隣からの騒音・振動に対する苦情等もなく、無事に完了することができた。 ◆課題 ・平成27年度をもって予定した施設整備を全て完了した。今後は、完成した施設が適切に管理運営されるよう対応していかなければならない。				
事業の方向性	継続 改善		拡充 縮小		○

〔イ〕 小中一貫教育学校建設推進委員会				
事業の概要	◆目的 三戸地区小中一貫教育学校の建設に関して必要な事項を具体的に検討し、その結果を三戸町教育委員会に報告する。 (1) 小中一貫教育学校の建設の推進に関し、必要な事項を検討すること。 (2) 小中一貫教育学校の開校に関し、必要な事項を検討すること。 (3) その他、教育委員会が必要と認める事項。 ◆事業費 43千円(財源 一般43千円)			
実績	◆三戸地区小中一貫教育学校建設推進委員 15名(町内小中学校長3名、町内小中学校保護者7名、教育振興協議会長、社会教育委員長、体育協会長、総務文教常任委員長、建設農林常任委員長) ・4月27日に第13回建設推進委員会を開催した。 案件：小中一貫教育学校建設事業進捗状況について、町民プール建設工事について			
成果と課題	◆成果 ・建設推進委委員会で検討された、町民プール建設工事が完了した。 ◆課題 ・平成27年度をもって予定した施設整備を全て完了した。今後は、完成した施設が適切に管理運営されるよう対応していかなければならない。			
事業の方向性	継続 改善	拡充 廃止		建設事業完了により委員会を解散した。

〔ウ〕 小中一貫教育推進委員会				
事業の概要	◆目的 「三戸町立小・中学校の義務教育振興に関する検討会議」の報告内容をふまえた、小中一貫教育を推進するための基本方針に関することやその他の事項について検討し、必要に応じその結果を教育長に提言する。 ◆事業費 104千円(財源 一般104千円)			
実績	◆第1回小中一貫教育推進委員会(平成27年10月26日) (1) 報告 ア 小中一貫教育制度の導入に係る学校教育法等の一部を改正する法律について イ 平成27年度前期の取組状況及び後期の予定について (2) 協議(三戸町小中一貫教育の充実及び改善策について) ア 学校教育法等の改正を受けての小中一貫教育の進め方について イ 小中一貫教育で目指す子ども像の育成について ◆第2回小中一貫教育推進委員会(平成28年3月14日) (1) 報告 ア 各部会等の開催状況について イ 平成27年度における取り組みの成果と課題 (2) 協議 ア 平成28年度三戸町小中一貫教育推進体制について イ 三戸町の小中一貫教育における諸課題について ○参考 平成27年度小中一貫教育推進体制構造図 小中一貫教育推進委員会			

	小中一貫教育実施委員会 各部会代表者会議 学習指導部会 生徒指導部会 養護教諭部会 事務部会 特別支援教育部会			
成果と課題	◆成果 ・学識経験者や県の指導助言により、前年度に検討課題とされた事項を改善することができた。 ・各部会や授業発表の開催方法など、平成２８年度に向けた推進体制を確認することができた。 ◆課題 ・学校教育法等の一部改正により、平成２８年４月に義務教育学校が全国で２２校設置されるなど、新たな制度に基づく小中一貫教育を行う自治体が増加傾向にある。三戸町も新制度の学校への移行について早急に検討しなければならない。 ・三戸町では文部科学省から教育課程特例校の指定を受けて道徳、特別活動、総合的な学習の時間を融合し、新教科「立志科」として実施しているが、学校教育法施行規則の改正により、小中学校で教える道徳が「特別の教科」に位置付けられた。現在の特例は平成２９年度末まで認められているが、それ以降の取り扱いや教科書改訂についての検討が急務である。			
事業の方向性	継続改善	拡大	縮小	立志科の検討に関する新たな組織の立ち上げと、制度化された小中一貫教育への移行について検討する。

（２）就学支援等の充実

〔エ〕 要保護・準要保護児童生徒就学援助事業																			
事業の概要	◆目的 経済的に就学困難な児童生徒の保護者に対し、学用品費等を援助することにより、義務教育の円滑な実施を図ることを目的とする。 ◆事業費 8, 508千円（財源 国庫補助50千円・一般8, 458千円）																		
実 績	◆支給実績 (1) 支給費目 給食費、学用品費、新入学用品費、通学品費、医療費、校外活動費、修学旅行費 (2) 認定状況																		
	<table><tr><td></td><td>小学校</td><td>中学校</td></tr><tr><td>要保護</td><td>4名</td><td>1名</td></tr><tr><td>準要保護</td><td>44名</td><td>42名</td></tr><tr><td>児童生徒に占める割合</td><td>11.0%</td><td>18.0%</td></tr><tr><td>支給額</td><td>3,553千円</td><td>4,995千円</td></tr></table>				小学校	中学校	要保護	4名	1名	準要保護	44名	42名	児童生徒に占める割合	11.0%	18.0%	支給額	3,553千円	4,995千円	
		小学校	中学校																
	要保護	4名	1名																
	準要保護	44名	42名																
	児童生徒に占める割合	11.0%	18.0%																
支給額	3,553千円	4,995千円																	
成果と課題	◆成果 ・経済的困窮世帯の児童生徒の就学機会の確保及び保護者の経済負担軽減につながっている。 ◆課題 ・学年が上がるにつれ申請者が増加し、中学生の1.8割弱が準要保護生徒となっている。																		
事業の方向性	継続改善	○ 拡充																	
		縮小																	

〔オ〕 特別支援教育就学奨励事業				
事業の概要	◆目的 特別支援学級へ就学する児童生徒の保護者の経済的負担軽減のため、就学に必要な経費について一部を補助し、特別支援教育の普及奨励を図る。 ◆事業費 165千円（財源 国庫補助82千円・一般83千円）			
実績	◆支給内容 (1) 支給費目 学用品費、新入学用品費、修学旅行費、給食費、校外活動費 (2) 支給人数 小学校3名、中学校1名 合計4名（要・準要保護、辞退者除く） (3) 支給額 小学校 99,920円、 中学校 66,045円			
成果と課題	◆成果 ・特別支援学級在籍児童生徒の就学機会の確保及び保護者の経済的負担の軽減につながっている。 ◆課題 ・特になし。			
事業の方向性	継続 改善	☐	拡充 縮小	

〔カ〕 奨学金貸与事業																						
事業の概要	◆目的 経済的に修学困難な青少年の修学機会の確保並びに有用な人材育成のための支援。																					
	◆事業費（貸与額） 1 3, 7 4 0千円																					
	◆基金総額 2 4 1, 5 3 3千円																					
実 績	◆2 7年度貸与人数及び貸与額（カッコ内は平成2 7年度新規採用者）																					
	<table><tr><td>基金区分</td><td>貸与人数</td><td>貸与額</td></tr><tr><td>人材育成基金</td><td>1 5名（ 5名）</td><td>6, 600, 000円</td></tr><tr><td>高坂奨学基金</td><td>1 2名（ 6名）</td><td>3, 180, 000円</td></tr><tr><td>岩井堅三奨学基金</td><td>2名（ 0名）</td><td>720, 000円</td></tr><tr><td>佐藤義典奨学基金</td><td>9名（ 0名）</td><td>3, 240, 000円</td></tr><tr><td>合 計</td><td>3 8名（1 1名）</td><td>13, 740, 000円</td></tr></table>				基金区分	貸与人数	貸与額	人材育成基金	1 5名（ 5名）	6, 600, 000円	高坂奨学基金	1 2名（ 6名）	3, 180, 000円	岩井堅三奨学基金	2名（ 0名）	720, 000円	佐藤義典奨学基金	9名（ 0名）	3, 240, 000円	合 計	3 8名（1 1名）	13, 740, 000円
	基金区分	貸与人数	貸与額																			
	人材育成基金	1 5名（ 5名）	6, 600, 000円																			
	高坂奨学基金	1 2名（ 6名）	3, 180, 000円																			
	岩井堅三奨学基金	2名（ 0名）	720, 000円																			
	佐藤義典奨学基金	9名（ 0名）	3, 240, 000円																			
	合 計	3 8名（1 1名）	13, 740, 000円																			
成果と課題	◆成果 ・経済的理由により修学困難な青少年の修学機会の確保につながっている。																					
	◆課題 ・長引く不況や就職難等により、返済金の滞納が年々増加傾向にある。滞納者の多くは、町税等も滞納していることから、継続的な奨学金返済が困難となっている。																					
事業の方向性	継続	○	拡充																			
	改善		縮小																			

〔キ〕 私立幼稚園就園奨励費補助事業				
事業の概要	◆目的 私立幼稚園に幼児を就園させている保護者の経済的負担の軽減を図るため保育料の一部を補助する。 ◆事業費 実績なし			
実 績	◆補助金交付実績 実績なし			
成果と課題	◆成果 ◆課題			
事業の方向性	継続		拡充	平成27年度より町内私立幼稚園が子ども・子育て支援新制度の対象施設となり、本事業の対象外となった。そのため、町外私立幼稚園に在園する幼児の保護者のみが対象となったことから、事業費が大幅に減少している。
	改善		縮小 ○	

（３）教育活動支援のための補助事業の充実

〔ク〕 児童生徒全国大会等派遣費補助事業																	
事業の概要	◆目的 体育活動及び文化活動の振興を通して、児童・生徒の健全な育成を図ることを目的とし、学校教育活動における大会等へ参加する場合で、全国大会等に出場するための経費について補助金を交付する。																
	◆事業費 小学校 1 5 3 千円（財源 一般 1 5 3 千円） 中学校 2 9 7 千円（財源 一般 2 9 7 千円）																
実 績	◆補助金交付状況 (小学校)																
	<table><tr><th>出場大会名</th><th>派遣者数</th><th>補助金額</th></tr><tr><td>第 3 1 回わんぱく相撲全国大会</td><td>2 名</td><td>2 7 千円</td></tr><tr><td>第 1 9 回マーチング&バトンオンステージ東北大会</td><td>1 2 名</td><td>1 2 6 千円</td></tr></table> ※派遣者数には引率教員も含む。			出場大会名	派遣者数	補助金額	第 3 1 回わんぱく相撲全国大会	2 名	2 7 千円	第 1 9 回マーチング&バトンオンステージ東北大会	1 2 名	1 2 6 千円					
出場大会名	派遣者数	補助金額															
第 3 1 回わんぱく相撲全国大会	2 名	2 7 千円															
第 1 9 回マーチング&バトンオンステージ東北大会	1 2 名	1 2 6 千円															
	(中学校)																
	<table><tr><th>出場大会名</th><th>派遣者数</th><th>補助金額</th></tr><tr><td>第 1 2 回東日本選抜中学校相撲大会</td><td>6 名</td><td>6 3 千円</td></tr><tr><td>第 3 6 回東北中学校陸上競技大会</td><td>2 名</td><td>8 0 千円</td></tr><tr><td>第 3 6 回東北中学校相撲大会</td><td>4 名</td><td>1 0 1 千円</td></tr><tr><td>第 3 8 回東北中学校柔道大会</td><td>2 名</td><td>5 4 千円</td></tr></table> ※派遣者数には引率教員も含む。			出場大会名	派遣者数	補助金額	第 1 2 回東日本選抜中学校相撲大会	6 名	6 3 千円	第 3 6 回東北中学校陸上競技大会	2 名	8 0 千円	第 3 6 回東北中学校相撲大会	4 名	1 0 1 千円	第 3 8 回東北中学校柔道大会	2 名
出場大会名	派遣者数	補助金額															
第 1 2 回東日本選抜中学校相撲大会	6 名	6 3 千円															
第 3 6 回東北中学校陸上競技大会	2 名	8 0 千円															
第 3 6 回東北中学校相撲大会	4 名	1 0 1 千円															
第 3 8 回東北中学校柔道大会	2 名	5 4 千円															
成果と課題	◆成果 ・家庭の経済的な負担を軽減することができた。																
	◆課題 ・大会参加に係る経費について、交付対象を精査し適正に交付する必要がある。																
事業の方向性	継続		拡充	中学校については、中体連等派遣費補助金事業と一本化する。													
	改善	○	縮小														

〔ケ〕 教育振興協議会支援事業				
事業の概要	◆目的 教育委員会、学校、地域の連携により、学校教育・社会教育の振興を図る。 ◆事業費 752千円（財源 一般財源468千円 会費等284千円）			
実績	◆教職員研修等に対する助成 （１）県外研修派遣費助成（総額410千円） ・三戸小143千円、斗川小82千円、杉沢小60千円、三戸中65千円、杉沢中60千円 （２）教育研究班事業助成（総額80千円） ・教務主任研修会30千円、養護教諭研修会20千円、学校事務研修会20千円 ◆第48回三戸町子ども文化作品展を開催 ・開催日 平成27年11月13日～16日 ・場 所 三戸町民体育館 ・内 容 町内児童生徒の版画・絵画・毛筆・硬筆、540点を展示。 ・観覧者 991人 ◆第52号「三戸の教育」の発行			
成果と課題	◆成果 ・県外研修では、各学校教員がそれぞれの学校運営、教育指導に適した教育先進事例を研修し、教職員の資質向上、教育現場において指導力向上につながっている。 ・子ども文化作品展においては、児童・生徒の文化的資質の向上が図られ、教育関係者のみならず、町民多数が観覧した。 ◆課題 ・今年度は、公民館まつりとの同時開催であった為、観覧者数は昨年比200人程増えたが、展示スペースは昨年比展示作品が少なかった。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	展示作品を増やし、より魅力ある作品展にする。

〔コ〕 学校保健会補助事業				
事業の概要	◆目的 ①学校保健、学校安全に関する調査、研究の推進 ②地域保健に関する思想の普及啓発 ③児童、生徒の保健向上 ④学校保健、学校安全に関する講習会、発表会 ◆事業費 150千円（財源 一般150千円）			
実績	◆概要 〈講習会〉救急法実技講習会（職員・保護者対象） 〈調 査〉保健白書作成 〈啓 発〉児童生徒から保健標語募集・優秀作品を「広報さんのへ」に毎月掲載 〈会 報〉会報の発行			
成果と課題	◆成果 ・児童生徒の健康調査の充実が図られた。 ・保健標語の募集を通じて、児童生徒の保健意識の高揚が図られた。 ◆課題 ・児童生徒の健康管理の充実を図るために、より効果的な調査活動を推進する必要がある。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔サ〕 中学生芸術文化活動補助事業

事業の概要	◆目的 ・中学生が演劇、音楽、郷土芸能等の鑑賞や体験をととして豊かな人間性を育成することを目的として、中学校が行う芸術文化活動事業に対して補助金を交付する。 ◆事業費 0千円（財源 一般0千円）
実績	◆概要 ・実施校名 杉沢中学校 ・実施日 平成27年7月6日 ・実施内容 音楽鑑賞会（陸上自衛隊第九音楽隊） ※今回の事業は無料で実施された。
成果と課題	◆成果 ・本物の芸術に触れることにより、芸術文化に親しみ楽しむ態度、豊かな感受性の育成及び表現力の向上などにつながった。 ◆課題
事業の方向性	継続 ☐ 改善 ☐ 拡充 ☐ 縮小 ☐

（４）その他教育行政の推進

〔シ〕 スクールバス等運行事業

事業の概要	◆目的 ・遠距離児童生徒の通学手段確保を目的とし、通学バス・タクシーを運行する。 ◆事業費 40,076千円（財源 一般財源40,076千円）
実績	1. 通学バス運行事業（小86名、中61名） （1）路線 ①三戸小・三戸中目時地区（三戸中は登校のみ） 22名 ②三戸小貝守地区 47名（松原24名） ③斗川小豊川地区 12名 ④斗川小大舌地区 9名 ⑤三戸中貝守地区 35名（松原12名） ⑥三戸中斗内地区 22名 （2）運行回数 三戸小学校は年間231日、登校1回・下校2回（低学年・高学年） 斗川小学校は年間220日、登校1回・下校2回（低学年・高学年） 三戸中学校は年間230日、登校1回・下校1回 2. 通学タクシー運行事業（小2名、中10名） （1）路線 ①三戸小・三戸中蛇沼地区 4名 ②三戸中目時地区（下校のみ） 4名 ③三戸中大舌地区 4名 （2）運行回数 通学バスに同じ
成果と課題	◆成果 ・事故なく、通学バス・タクシーが運行されており、遠距離通学児童生徒の通学の便宜と安全が確保されている。 ◆課題 ・今後も効率的な運行方法について検討を継続していく。
事業の方向性	継続 ☐ 改善 ☐ 拡充 ☐ 縮小 ☐

〔ス〕 部活バス・部活支援バス運行事業				
事業の概要	◆目的 学校行事や部活動等における遠征時の移動を部活動バス、部活動支援バスで行うことにより、保護者の負担軽減を図る。 ◆事業費 部活動バス運行事業 2,563千円（財源 一般2,563千円） 部活動支援バス事業 1,989千円（財源 一般1,989千円）			
実績	◆運行回数及び乗車人数 （１）部活動バス 129回 延べ1,899人 （２）部活動支援バス 40回 延べ1,122人			
成果と課題	◆成果 ・児童生徒の部活動や校外活動時の移動手段として有効活用され、児童生徒や保護者の負担軽減につながっている。 ◆課題 ・貸切バス事業者の運賃・料金制度の変更に伴い部活動支援バスに係る運行費が増額となったため、効率の良い運行体系を検討する。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔セ〕 児童・生徒・教職員健康診断及び就学時健診																																									
事業の概要	◆目的 学校保健安全法に基づき、児童・生徒及び教職員の健康診断の実施と事後措置を行い、早期発見・早期治療を勧め、健康管理と健康保持促進を図り、学校教育の円滑な実施を図る。																																								
	◆事業費 3, 6 1 8 千円（財源 一般3, 6 1 8 千円）																																								
実 績	◆概要																																								
	<table><tr><td rowspan="9">（１）児童生徒健診</td><td>就学時健診</td><td>就学前児童65名</td><td></td></tr><tr><td>心電図検査</td><td>1年・4年・7年</td><td>217名</td></tr><tr><td>耳鼻科健診</td><td>全児童生徒</td><td>693名</td></tr><tr><td>眼科健診</td><td>全児童生徒</td><td>693名</td></tr><tr><td>歯科健診</td><td>全児童生徒</td><td>693名</td></tr><tr><td>内科健診</td><td>全児童生徒</td><td>693名</td></tr><tr><td>尿検査</td><td>全児童生徒</td><td>693名</td></tr><tr><td>貧血検査</td><td>5年・8年</td><td>167名</td></tr><tr><td>ぎょう虫検査</td><td>1年～3年</td><td>213名</td></tr><tr><td rowspan="3">（２）教職員健診</td><td>定期健診</td><td>53名</td><td></td></tr><tr><td>胃ガン検診</td><td>40歳以上希望者</td><td>31名</td></tr><tr><td>大腸ガン検診</td><td>40歳以上希望者</td><td>34名</td></tr></table>				（１）児童生徒健診	就学時健診	就学前児童65名		心電図検査	1年・4年・7年	217名	耳鼻科健診	全児童生徒	693名	眼科健診	全児童生徒	693名	歯科健診	全児童生徒	693名	内科健診	全児童生徒	693名	尿検査	全児童生徒	693名	貧血検査	5年・8年	167名	ぎょう虫検査	1年～3年	213名	（２）教職員健診	定期健診	53名		胃ガン検診	40歳以上希望者	31名	大腸ガン検診	40歳以上希望者
（１）児童生徒健診	就学時健診	就学前児童65名																																							
	心電図検査	1年・4年・7年	217名																																						
	耳鼻科健診	全児童生徒	693名																																						
	眼科健診	全児童生徒	693名																																						
	歯科健診	全児童生徒	693名																																						
	内科健診	全児童生徒	693名																																						
	尿検査	全児童生徒	693名																																						
	貧血検査	5年・8年	167名																																						
	ぎょう虫検査	1年～3年	213名																																						
（２）教職員健診	定期健診	53名																																							
	胃ガン検診	40歳以上希望者	31名																																						
	大腸ガン検診	40歳以上希望者	34名																																						
成果と課題	◆成果 ・学校及び医療機関と綿密な連絡調整の下、全ての健診において円滑に実施することができた。																																								
	◆課題 ・耳鼻科健診は医師の都合上1回のみの実施であり、全学校児童生徒が1校に集合して行うことから、行事調整や授業時数確保の面で学校側に大きな負担を強いている。																																								
事業の方向性	継続	○	拡充																																						
	改善		縮小																																						

〔ソ〕 学校評議員設置事業					
事業の概要	◆目的 地域に開かれた学校として、学校評議員を設置することにより、地域住民の意向等を把握し、より良い学校運営を推進することを目的とする ◆事業費 159千円（財源 一般159千円）				
実績	◆各校評議員 三戸小・中学校5人、斗川小学校4人、杉沢小・中学校5人 ◆各校において学校評議員会を2～3回実施。				
成果と課題	◆成果 ・校長が学校評議員の意見を受け、学校運営の改善を図り、地域に開かれた学校づくり、特色ある学校づくりを推進することにつながった。 ◆課題 ・全員が集まることができる日時の設定が難しい。 ・新規の評議員の選考方法について。				
事業の方向性	継続 改善	☐	拡充 縮小		

〔タ〕 学習習慣形成事業（学習コーチ事業）					
事業の概要	◆目的 予習・復習のやり方、ノートの取り方、記憶法・読書法といった「勉強のやり方」や学習計画の立て方について、児童生徒向けの講演会等を実施し、効率的な学習方法を身につけ学習の習慣化を目指す。あわせて教育委員会へのコンサルテーションを行い、指導力の向上に資することで、より効果的に学力向上を図る。 ◆事業費 1,100千円（財源 一般1,100千円）				
実績	◆講演会等の実施（講師：株式会社プラスティ教育研究所 代表取締役 清水章弘様） （1）学習コーチ講演会の実施（3回） 勉強のやり方や学習計画の立て方に関する講演会（年3回）の実施。 ア 実施日 平成27年10月27日 場 所 小中一貫三戸学園三戸小・中学校 対 象 小中一貫三戸学園三戸中学校 9年生76名及び教員 内 容 学習コーチ講演会「習慣を変えると頭が良くなる」 入試当日までの具体的な勉強のやり方や入試の心構えなど イ 実施日 平成27年10月28日 場 所 小中一貫三戸学園斗川小学校 対 象 小中一貫三戸学園斗川小学校 3～5年生24名及び教員 内 容 学習コーチ講演会「習慣を変えると頭が良くなる」 基本的な勉強のやり方など ウ 実施日 平成28年1月28日 場 所 小中一貫三戸学園三戸小・中学校 対 象 小中一貫三戸学園三戸中学校 新7年生の保護者 内 容 勉強のやり方セミナー「7年生（中学生）からの勉強のやり方」				

(2) 7年生進級前ガイダンスの実施(1回) 学習や生活の大きな変化による「中1ギャップ」を生じる予備軍である6年生に対し、基本的な生活習慣の確立や学習習慣の形成に関するガイダンスを行うことにより、学校種間の接続を円滑にし、中学校進学時の不安や心理的段差を緩やかにすることで「中1ギャップ」を軽減する。 実施日 平成28年2月9日 場 所 小中一貫三戸学園三戸小・中学校 対 象 町内全ての6年生84名及び教員 内 容 「中学生からの勉強のやり方」 予習・授業・復習・テストのサイクルに基づいた具体的な勉強方法や、効果的なノートの取り方や記憶方法、学習計画の立て方について (3) 9年生進級前ガイダンスの実施(1回) 4月に最高学年となる8年生を対象に、教科の具体的な勉強方法(予習・授業・復習・テスト)についてのアドバイスを行うことにより、学習習慣の形成を促し、卒業後の進路達成のため自ら勉強方法を工夫することにつなげる。 実施日 平成28年3月7日 場 所 小中一貫三戸学園三戸小・中学校 対 象 小中一貫三戸学園三戸中学校 8年生85名及び教員 内 容 予習・授業・復習・テストのサイクルに基づいた具体的な勉強方法や、効果的なノートの取り方や記憶方法、学習計画の立て方について (4) 教育委員会及び学校へのコンサルテーション(1回) 教育委員会へのコンサルテーションにより、効果的な学習指導や学習の習慣化に向けた施策など、小中一貫教育の推進に資する取り組み。 実施日 平成28年2月18日 場 所 株式会社プラスティ教育研究所 対 象 教育委員会事務局及び三教研指導主事 内 容 日々の学習指導と定期テストや実力テストの結果など、個人の情報をカルテにまとめた				
成果と課題	◆成果 ・児童生徒が学習習慣を形成し、自ら主体的に学ぶ姿勢を身につけさせるための内発的動機付けが促された。 ・9年生対象の学習コーチ講演会を夏休み初頭に開催したことで、部活動から受検への切り替えがスムーズにできた。 ・7年生進級前ガイダンスの実施により、学習や生活の大きな変化による「中1ギャップ」を生じる予備軍である6年生の7年生進級前の不安や心理的段差を緩やかにし、進級への期待を増すことができた。 ・児童生徒への学習コーチのみならず、保護者向けの講演を行ったことにより、生活習慣の確立と学習習慣の形成について家庭の協力を得られることが期待できる取り組みとなった。 ◆課題 学校での日常的な学習指導との関連づけに工夫が必要。			
事業の方向性	継続改善	☐	拡充	9年生を重点学年に設定し、年間を通じた学校での日常的な学習指導との関連づけを行う。
		☐	縮小	

〔チ〕 三戸町立学校給食共同調理場運営				
事業の概要	◆目的 学校給食が児童及び生徒の心身の健全な発達に資するものであり、かつ、児童及び生徒の食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たすものであることにかんがみ、学校給食及び学校給食を活用した食に関する指導の実施に関し必要な事項を定め、学校給食の普及充実及び学校における食育の推進を図る。 ◆事業費 特別会計（給食材料費） 42,035千円（財源 保護者等負担） 一般会計（共同調理場運営費） 46,129千円（財源 一般46,129千円）			
実績	◆概要 児童生徒及び教職員等793名の給食対象者に対し、196日間、児童84,702食、生徒42,866食、教職員等19,891食、合計147,459食の完全給食を提供した。			
成果と課題	◆成果 ・食の出前授業等により、1日平均の残食の量が、平成25年度14.5kg、26年度13.5kgと減少していたが、27年度は13.8kgと横並びの状態である。 ◆課題 ・平成13年の調理場の建設から14年以上が経過し、施設や調理機器の経年劣化による故障が増えている。製造メーカーが無くなったものもあり、機器の更新が必要となっている。			
事業の方向性	継続 改善	☐	拡充 縮小	

2. 学校教育指導の重点

(1) 小中一貫教育の推進

〔ア〕 小中一貫教育授業交流発表会（公開授業研究発表会）				
事業の概要	◆目的 三戸町の小中一貫教育の方向性「みんな なかよく 共に学び共にはぐくむ」に基づき、「心豊かでたくましい児童生徒の育成」を目指した教育の充実に向かって、参加者が互いに語り深め合い、授業力の向上に資する。また、全体会での講演を通じ、現在の教育課題を解決する手段としての小中一貫教育の役割について、教職員に改めて周知する機会とする。 ◆事業費 399千円（財源 一般399千円）			
実績	◆小中一貫三戸学園三戸小・中学校の公開授業研究発表会に対して補助金を交付し、町教委の後援事業として開催した。 発表テーマ「小中一貫校における確かな学力をはぐくむ学習活動の在り方の研究」 日時：平成27年12月4日（金） 会場：小中一貫三戸学園三戸小・中学校 参加者：県内外から学校教職員や教育行政関係者を中心に約200名 公開授業：同校の小中一貫教育の特徴である「立志科・英語科（小学校）・乗り入れ授業・小中教員TT指導・指導の系統性・小学校における中学校教員の活用」の視点に基づく10の授業を2校時にわたり公開 研究協議：3年間の「学校体制・教育課程・研究過程」についての成果発表 基調講演 演題：小中一貫教育の動向 講師：一般財団法人 学校教育研究所 理事長 若月 秀夫 先生			
成果と課題	◆成果 ・施設一体型として開校した三戸小・三戸中の3年間の成果を発表し、多くの参加者から多くの意見をいただく貴重な機会となった。 ・基調講演では、小中一貫教育の専門家から全国的な動向と三戸町の取り組みの評価をいただき、今後の小中一貫教育の推進にあたり大きな示唆をいただいた。 ◆課題 ・開催校の規模によって出来る内容が限られてしまうため、今後の開催方法や開催校の決定については検討する必要がある。			
事業の方向性	継続 改善	○ □	拡充 縮小	平成28年度については、杉沢小中学校で開催する。

〔イ〕 小中一貫教育学習指導部会				
事業の概要	◆目的 小中一貫教育推進委員会の下部組織として、教育課程及び年間指導計画の編成、教育内容、指導方法並びに副教材等に関する検討を行うための部会を設置する。 ◆事業費 0千円（財源 一般0千円）			
実績	◆会議の開催 第1回 平成27年 4月24日（金）※学校教育研究大会終了後に開催 第2回 平成27年 8月 5日（水） 第3回 平成27年12月25日（金）※全体会後に各部会を開催			
成果と課題	◆成果 - 一部の教科部会では提案型の公開授業や乗り入れ授業を行うなど、9年間一貫した指導についての確認の場として有効に機能した。 - 各部会からの取組状況の報告を行ったことで、教職員間の意識の共有が促進された。 ◆課題 - 共通で取り組むべき内容を設定していないことから、部会によって活動内容が大きく異なった。			
事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

〔ウ〕 三戸町学校教育研究大会				
事業の概要	◆目的 町の教育方針や小中一貫教育の方向性を示すことで、教職員が一丸となって小中一貫教育を推進する機運を醸成する。 ◆事業費 0千円			
実績	◆概要 (1) 日時：平成27年4月24日（金） (2) 場所：小中一貫三戸学園三戸小・中学校 交流ホール (3) 対象：町内全教職員 (4) 内容：①三戸町教育基本方針について（教育委員長） ②共に学び共にはぐくむ三戸町の教育（教育長） ③小中一貫教育における生活習慣づくりについて（教育委員会事務局） ④三戸町小中一貫教育推進委員会等委嘱状交付（教育長） ⑤小中一貫教育推進委員会各部会の活動について（各部会代表者）			
成果と課題	◆成果 小中一貫教育の推進に向けて教職員全体の共通認識を持つことができた。 ◆課題			
事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

〔エ〕 小中一貫・中高連携教育支援事業（三戸地方教育研究所）				
事業の概要	◆目的 小中学校ならびに教育委員会事務局等に対して、学校の地域性や児童生徒の実態に応じ、専門的知識や教科指導力を有する人材を派遣し、小中一貫ならびに中高連携教育の充実に資する ◆事業費 130千円			
実績	◆三戸小・中学校公開授業発表会に関わる支援 （１）内容：①平成27年10月28日（水） ・授業参観及び小中一貫教育推進のための講話 ・公開授業研究発表会の開催に関する指導 ②平成27年12月 4日（金）＜三戸小・中学校公開授業発表会＞ ・授業参観及び研究協議会助言 ・講演「小中一貫教育の動向」 （２）講師：一般財団法人学校教育研究所 理事長 若月 秀夫 氏			
成果と課題	◆成果 ・三戸小・中学校の公開授業研究発表会に向け、先進地域である品川区での取り組みをもとに、事前の研修会で助言をいただくとともに、発表会当日、これからの小中一貫教育の動向についてご講演をいただいた。 ◆課題 ・今年度は、三戸小・中学校の公開授業研究発表会のために活用したが、他の学校や教育関係機関でも有効に活用できるよう、事業の内容を小中一貫教育に限らず、幅広く活用できるようなものにし、各学校の課題解決に役立つものにしたい。			
事業の方向性	継続 改善	☐	拡充 ☒ 縮小	☐

〔オ〕 小中乗り入れ授業実施				
事業の概要	◆目的	三戸町小中一貫教育要領に定める教科の指導にあたり、中学校の教員が5、6年生に対して、専門性を生かした授業を行い、教科への興味・関心を高めるとともに、小学校の教員が7年生に補助的な指導に入ることにより、学習のつまづきを解消して、確かな学力の定着を目指す。		
	◆事業費	0千円		
実 績	◆学年や教科により下表のとおり実施。			
	学年	教科	週あたり 時間数	指 導 の 形 態
	5	音楽	1. 5	ほぼ全ての授業で、中学校の音楽科教員が専科指導。
		図工	1. 5	ほぼすべての授業で、中学校の美術科教員が専科指導。 指導内容により、学級担任がサポートする。
		家庭	1. 5	中学校の家庭科教員が専科指導。
		英語	0. 3	原則として小学校の担任とALTによるティーム・ティーチングにより指導し、題材によっては中学校の英語科教員が補助的な指導を行う。
6	音楽	1. 5	ほぼ全ての授業で、中学校の音楽科教員が専科指導。	

		図工	1. 5	原則として中学校の教員がT 2としてサポート。指導内容により、美術科教員がサポートする。
		家庭	1. 5	中学校の家庭科教員が専科指導。
		英語	0. 3	原則として小学校の担任とALTによるティーム・ティーチングにより指導し、題材によっては中学校の英語科教員が補助的な指導を行う。
		理科	3	原則として小学校の担任と中学校の理科教員によるティーム・ティーチングにより指導。指導内容により中学校の理科教員が実験助手、補助、授業者となる場合がある。
		算数	5	原則として小学校の担任が授業者で中学校の数学科教員がサポート。指導内容により中学校の教員が授業者で実施することもある。
		体育	2. 5	ほぼすべての授業で、中学校の保健体育教員が専科指導。指導内容により、学級担任がサポートする。
	7	数学	年度当初のみ	原則として中学校の数学科教員が授業を行い、小学校教員が補助的な指導（ティーム・ティーチング）を行った。
	4～6年生の理科においては、実験など中学校教員が扱った方が良い単元に限って、トピック的にティーム・ティーチングを行った。			
成果と課題	◆成果 ・5、6年生にとっては、中学校教員が専門性を活かして授業に参加したことにより、教科に対する興味や関心が湧いた様子が窺えた。 ・特に技能教科では、指導内容の連続性が担保されたり、教材選択の工夫がしやすかったりと、効果的な教員の指導や児童生徒の理解につながっている。また、授業を行う特別教室の場の設定（教材の準備、制作物の展示、学習教材の掲示等）も有効に行うことができ、異学年の学習内容を互いに取り入れるなどの効果が表れている。 ・算数の乗り入れは、児童にとっては一部を中学校教員が授業することで、授業のスピードに慣れることにつながり、中学校の教員にとっては年間を通して授業に参加することで、理解度の差など子供の様子を知ることが出来るなど、双方にとって効果的な取組になっている。 ・小中の教員にとっては、相互に指導内容の9年間の系統性を児童・生徒の様子を見ながら確認できた。 ・小中の教員が、授業をもとにした児童生徒の情報交換や、学習展開についての協議等を行うことで、協同意識が芽生え、組織的な教育活動の実施にもつながっている。 ◆課題 ・物理的な問題で乗り入れが困難な学校もあるので、実践内容を蓄積し各校で活用していく必要がある。 ・中学校から小学校への乗り入れ授業の内容（教科・頻度）は、中学校教員の配置（所持免許）に左右される。また、乗り入れ授業を担当する教員の負担軽減（持ち時間数、校務分掌内容等）を考慮する必要がある。 ・授業サポートとして中から小への乗り入れについては効果的に行われているが、役割分担を明確にしたティーム・ティーチングを行う場合には、事前の打ち合わせや事後の振り返りをする時間の確保が困難となっている。			
事業の方向性	継続改善	○	拡充	各教科部会等において乗り入れが効果的な題材等を検討し、教員の負担軽減に努めるとともに効果的な乗り入れ授業の実践に努める。
			縮小	

(2) 授業の充実

〔カ〕 小中一貫教育学習指導部会 (再掲)				
事業の概要	◆目的 小中一貫教育推進委員会の下部組織として、教育課程及び年間指導計画の編成、教育内容、指導方法並びに副教材等に関する検討を行うための部会を設置する。 ◆事業費 0 千円 (財源 一般 0 千円)			
実績	◆会議の開催 第1回 平成27年 4月24日(金) ※学校教育研究大会終了後に開催 第2回 平成27年 8月 5日(水) 第3回 平成27年12月25日(金) ※全体会後に各部会を開催			
成果と課題	◆成果 - 一部の教科部会では提案型の公開授業や乗り入れ授業を行うなど、9年間一貫した指導についての確認の場として有効に機能した。 ◆課題 - 全体の共通認識を図る場面が設定できなかったことから、部会によって活動内容が大きく異なった。			
事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

(3) 立志科の充実

〔キ〕 立志科推進事業補助金交付事業		
事業の概要	◆目的 独自の教科である「立志科」により心豊かでたくましい児童・生徒を育むため、各学校が地域に根ざした教育活動を推進するための事業に対し補助金を交付する。 ◆事業費 705千円（財源 一般705千円）	
実績	◆事業概要 （１）補助対象となる事業内容 自然環境や環境問題に関する体験を取り入れた教育活動 自然体験や社会奉仕体験を取り入れた教育活動 郷土理解に関わる体験を取り入れた教育活動 勤労生産・職業体験を取り入れた教育活動 上記を取り入れて行う、幼児・高齢者・障害者・外国人等や他校種等との交流活動 （２）各学校の活動内容	
	三戸小学校 （310千円）	斗川小学校 （190千円）
	杉沢小学校 （100千円）	
	伝統食文化体験 伝統料理体験 勤労自然体験 昔の遊び体験 福祉体験 季節行事体験 蛇沼大黒舞の伝承 まつりばやしの伝承	学校農園野菜づくり 花いっぱい運動 魚の飼育、観察 米づくり体験活動 収穫祭 獅子舞伝承活動 昔の遊び道具体験活動
		野菜づくり 世界の国とこんにちは 三戸ってすばらしい チューリップを育てよう おじいさんおばあさんとな かよし

	<table><tr><td>三戸中学校 (79千円)</td><td>杉沢中学校 (26千円)</td></tr><tr><td>職場体験活動 資源回収体験活動 秋まつり体験活動</td><td>陶芸教室 職場体験</td></tr></table>				三戸中学校 (79千円)	杉沢中学校 (26千円)	職場体験活動 資源回収体験活動 秋まつり体験活動	陶芸教室 職場体験
三戸中学校 (79千円)	杉沢中学校 (26千円)							
職場体験活動 資源回収体験活動 秋まつり体験活動	陶芸教室 職場体験							
成果と課題	◆成果 ・ 立志科を通じて身につけさせたい10の能力の涵養につながった。 ・ 地域の方々とのふれあいを通じて、地域の学校支援意識の向上につながった。 ・ 地域に伝わる伝統・文化の継承の一助となっている。 ◆課題 ・ 計画どおりの活動を行えない学校がある。計画した活動が行えない場合は、事業計画に基づく変更を行うなど、目的が達成できるよう働きかける。							
事業の方向性	継続改善	○	拡充 縮小					

(4) 体育健康教育の充実

〔ク〕 基本的生活習慣（生活リズム）講演事業				
事業の概要	◆目的 児童生徒の生活習慣改善に向けた内発的動機付けのみならず、教職員・保護者・地域住民を対象とした講演会を開催することにより、学校・家庭・地域社会が一丸となって「生活習慣改善」に取り組む機運を醸成する。			
	◆事業費 0千円			
実 績	◆5回の講演会を実施。			
	7月25日（土）	三戸土曜塾塾生25名 『生活リズムと時間の使い方』		
	11月25日（水）	小中一貫三戸学園三戸小学校5年2組34名 『健康的な生活について考えよう』 ～夢の実現や目標の達成に向けて～		
	12月4日（金）	小中一貫三戸学園三戸小学校5年1組35名 『健康的な生活について考えよう』 ～夢の実現や目標の達成に向けて～		
	12月17日（木）	小中一貫三戸学園三戸小学校5学年69名及び保護者 『健康的な生活について考えよう』 ～夢の実現や目標の達成に向けて～		
	2月9日（火）	町内小学6年生84名 『生活リズムを整えよう「早寝早起き朝ごはん」』		
	成果と課題	◆成果 ・概ね講演の内容が理解されたことにより、当初の目的が達成された。		
◆課題 ・発達段階に応じた指導が行われるよう、関係機関へのはたらきかけが必要。				
事業の方向性	継続	○	拡充	学習指導要領における睡眠等の生活習慣に関連させ、保健体育、家庭科、立志科の中で扱うよう働きかける。
	改善		縮小	

〔ケ〕 栄養教諭による食の出前授業					
事業の概要	◆目的 子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、学校における食育の一層の充実を図るため、栄養教諭による児童生徒への食に関する授業を実施する。 ◆事業費 0 円				
実績	◆29回実施 三戸小学校 実施回数 17回 (各学級1回) 斗川小学校 実施回数 6回 (各学年1回) 杉沢小学校 実施回数 3回 (1学年1回、3・4学年1回、5・6学年1回) 三戸中学校 実施回数 3回 (各学年1回) 杉沢中学校 実施回数 0回 (全学年1回)				
成果と課題	◆成果 - 授業実施後に児童生徒が書いた感想文を読むと、理解の程度に差はあるものの食に関する意識の向上が顕著に見られる。 ◆課題 - 食に関する正しい習慣や知識を習得させるには継続した活動が必要である。				
事業の方向性	継続 改善	○	拡充		

(5) 生徒指導の充実

〔コ〕 生活習慣改善による不登校対策事業				
事業の概要	◆目的 中1ギャップを生じる予備軍である小学校高学年を含めた児童生徒を対象に、生活習慣や睡眠実態等の調査を実施し、調査結果に関する医師の分析後、生活改善が必要な児童生徒及びその保護者に対して、生活改善に必要な助言を行う。更には、必要に応じて医師による3者面談を行い、個の状況に応じた具体的な改善方策（処方箋）を示すことで、不登校の未然防止に努める。 ◆事業費 258千円（財源 一般258千円）			
実績	(1) 調査期間 平成27年12月7日～20日の2週間 (2) 調査対象児童生徒 町内5年生～9年生 398名 ※面談の必要性について 医師の分析結果に基づく生活習慣の改善指導については、医師の面談によらずとも、調査結果や指導助言内容をベースに、学校や家庭での指導が可能なものもある。真に面談が必要と認められる児童生徒については面談を実施する。 ※面談医師 兵庫県立総合リハビリテーションセンター子どもの睡眠と発達医療センター特命参与三池輝久氏（小児科・小児神経科専門医）			
成果と課題	◆成果 ・本事業を実施してから新規の不登校が減少していることから未然防止の一助となっていることが分かる。 ◆課題 ・調査・分析結果の学校での活用については、養護教諭や生徒指導部などが連携して不登校の未然防止に努める意識の高まりが必要である。			
事業の方向性	継続改善	○	拡充	評価と結果の活用方法の検討。
			縮小	

〔サ〕 学級経営研修講座（三戸地方教育研究所）					
事業の概要	◆目的 児童生徒理解に基づいた生徒指導の充実や、個別のニーズに応じた特別支援教育の充実、授業改善による分かる授業の充実に係わる研修・講演を通して、教員の資質の向上と、よりよい学級経営の実現を図る。 ◆事業費 65千円				
実績	◆（１）受講者：三八管内から116名の参加 ※三戸町68名 （２）講師：山形大学大学院 教育実践研究科 教授 三浦 光哉 先生 （３）研修：特別支援教育の視点を生かした学級経営				
成果と課題	◆成果 ・巡回相談研修会の全体会も兼ねて実施した。事前に参加者からアンケートをとり、困っている事例（26事例）について、1グループで1事例について協議し、全体で発表し、講師より助言していただく形で研修を行った。校種、担当別のグループ編成を行うことで、充実したグループ協議ができたようである。各グループの発表及び助言においても、日頃困っていることについての意見を聞くことができたことと好評であった。 ◆課題 ・各学校の2学期始業式の日程が異なっていたことと講師の都合で、2学期が始まってすぐの研修会になってしまった学校があり、日程の設定に問題を残した。 ・2時間の中で、26の事例について行ったため、一つひとつの事例についてあまり深めることができなかった。				
事業の方向性	継続 改善	☐	拡充 縮小		

〔シ〕 学校生活満足度（Q-U）調査（三戸地方教育研究所）					
事業の概要	◆目的 学級の状態を把握するための調査「hyper-QU」・「Q-U」を全校で実施、各校での活用を促すことにより児童生徒理解に基づいた生徒指導、より良い学級経営の実現に資する。 ◆事業費 395千円				
実績	◆ 1回目 5月下旬「hyper-QU」 対象 全小中学校 2回目 10月下旬「Q-U」 対象 全小中学校 今年度から1回目については「hyper-QU」を実施した。				
成果と課題	◆成果 ・「hyper-QU」を実施するにあたっては、診断料が必要だが、通常の「Q-U」と異なり、ソーシャルスキルや学力とのクロス集計など、教師用の詳細な分析データが得られるとともに、児童生徒用個人票が送付されるため、活用しやすくなっている。 ◆課題 ・学校により、Q-Uの活用に差がみられる。「hyper-QU」についても教育相談研修講座において活用の仕方についての研修を行っており、アンサーチェックによる個別支援への生かし方等について指導していただいている。しかし、各校2名程度の参加であるため、参加した先生方が中心となって各学校で広めていただくような工夫をしていく必要がある。				
事業の方向性	継続 改善	☐	拡充 縮小		

〔ス〕 教育相談室運営（三戸地方教育研究所）				
事業の概要	◆目的 三戸地方に在住するおおむね18歳以下の児童・生徒の教育に関して、家庭や学校及びその他からの相談に応じて必要な助言指導を行い、不登校など課題解決の援助を図る。 ◆事業費 0円			
実績	(1)教育相談のべ件数 38件（適応指導を含む） 実相談人数 6名（内三戸町：小学生1名、中学生3名、高校生1名） (2)適応指導のべ件数 32件 実指導人数 2名（内三戸町：中学生1名） (3)電話相談件数 7件			
成果と課題	◆成果 ・学級担任や支援員との連携を密にとりながら対応することができ、相談室での登校にむけた対応と登校した際の学校での対応をスムーズにつなげることができ、進学に気持ちを向けることができた。 ◆課題 ・教育相談室の利用へもつなげることがなかなかできない、家庭の問題等複雑な要因を抱えた事例が増えてきており、はたらきかけが難しくなっている。			
事業の方向性	継続	☐	拡充	☐
	改善	☐	縮小	☐

〔セ〕 不登校等連絡会議（三戸地方教育研究所）				
事業の概要	◆目的 ・不登校となっている児童生徒の事例について専門的知識を有する講師から対応の仕方などについて指導助言を受けることにより、児童生徒の指導の改善と不登校の解消を図る。また、小中学校の不登校児童生徒の情報を共有することにより小中学校が連携した指導の実現を図る。 ◆事業費 6千円（青森県学校教育センターの事業を活用）			
実績	◆(1)会議：年間4回の開催 ①第1回目：小中学校の不登校について情報交換 ②第2回目～第4回目：各校の事例の報告と対応の在り方の助言指導 (2)対象：三戸地方の不登校児童生徒の指導にかかわる先生 (3)参加人数 1回目：11名 2回目：7名 3回目：4名 4回目：6名 (4)講師：柴谷崇之、鈴木悟（青森県総合学校教育センター指導主事）			
成果と課題	◆成果 ・会議は各校の事例報告、質疑、参加者からの意見、講師からの助言という流れで行った。各学校の事例では、適切な対応から不登校にならずにすんでいるケースや、難しい事例に熱心に対応しているケースの報告が多く、実際の事例に基づいた助言指導も含め、実践に結び付く内容であった。校内で組織としての初期対応ができてきており、新たな不登校を防ぐことができていくケースが多くみられる。 ◆課題 ・講師は青森県総合教育センターの教育相談課の事業を活用しているが、この事業が廃止された際は講師の確保が難しい。 ・家庭へのはたらきかけができず、対応が難しいケースが増えてきている。			
事業の方向性	継続	☐	拡充	☐
	改善	☐	縮小	☐

(6) キャリア教育の支援

〔ソ〕 立志科推進事業補助金交付事業（再掲）															
事業の概要	◆目的 独自の教科である「立志科」により心豊かでたくましい児童・生徒を育むため、各学校が地域に根ざした教育活動を推進するための事業に対し補助金を交付する。 ◆事業費 7 0 5 千円（財源 一般 7 0 5 千円）														
実 績	◆事業概要 （１）補助対象となる事業内容 自然環境や環境問題に関する体験を取り入れた教育活動 自然体験や社会奉仕体験を取り入れた教育活動 郷土理解に関わる体験を取り入れた教育活動 勤労生産・職業体験を取り入れた教育活動 上記を取り入れて行う、幼児・高齢者・障害者・外国人等や他校種等との交流活動 （２）各学校の活動内容 <table><tr><td>三戸小学校 （ 3 1 0 千円）</td><td>斗川小学校 （ 1 9 0 千円）</td><td>杉沢小学校 （ 1 0 0 千円）</td></tr><tr><td>伝統食文化体験 伝統料理体験 勤労自然体験 昔の遊び体験 福祉体験 季節行事体験 蛇沼大黒舞の伝承 まつりばやしの伝承</td><td>学校農園野菜づくり 花いっぱい運動 魚の飼育、観察 米づくり体験活動 収穫祭 獅子舞伝承活動 昔の遊び道具体験活動</td><td>野菜づくり 世界の国とこんにちは 三戸ってすばらしい チューリップを育てよう おじいさんおばあさんとかよし</td></tr></table> <table><tr><td>三戸中学校 （ 7 9 千円）</td><td>杉沢中学校 （ 2 6 千円）</td></tr><tr><td>職場体験活動 資源回収体験活動 秋まつり体験活動</td><td>陶芸教室 職場体験</td></tr></table>					三戸小学校 （ 3 1 0 千円）	斗川小学校 （ 1 9 0 千円）	杉沢小学校 （ 1 0 0 千円）	伝統食文化体験 伝統料理体験 勤労自然体験 昔の遊び体験 福祉体験 季節行事体験 蛇沼大黒舞の伝承 まつりばやしの伝承	学校農園野菜づくり 花いっぱい運動 魚の飼育、観察 米づくり体験活動 収穫祭 獅子舞伝承活動 昔の遊び道具体験活動	野菜づくり 世界の国とこんにちは 三戸ってすばらしい チューリップを育てよう おじいさんおばあさんとかよし	三戸中学校 （ 7 9 千円）	杉沢中学校 （ 2 6 千円）	職場体験活動 資源回収体験活動 秋まつり体験活動	陶芸教室 職場体験
三戸小学校 （ 3 1 0 千円）	斗川小学校 （ 1 9 0 千円）	杉沢小学校 （ 1 0 0 千円）													
伝統食文化体験 伝統料理体験 勤労自然体験 昔の遊び体験 福祉体験 季節行事体験 蛇沼大黒舞の伝承 まつりばやしの伝承	学校農園野菜づくり 花いっぱい運動 魚の飼育、観察 米づくり体験活動 収穫祭 獅子舞伝承活動 昔の遊び道具体験活動	野菜づくり 世界の国とこんにちは 三戸ってすばらしい チューリップを育てよう おじいさんおばあさんとかよし													
三戸中学校 （ 7 9 千円）	杉沢中学校 （ 2 6 千円）														
職場体験活動 資源回収体験活動 秋まつり体験活動	陶芸教室 職場体験														
成果と課題	◆成果 ・立志科を通じて身につけさせたい10の能力の涵養につながった。 ・地域の方々とのふれあいを通じて、地域の学校支援意識の向上につながった。 ・地域に伝わる伝統・文化の継承の一助となっている。 ◆課題 ・計画どおりの活動を行えない学校がある。計画した活動が行えない場合は、事業計画に基づく変更を行うなど、目的が達成できるよう働きかける。														
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小												

(7) 特別支援教育の充実

〔タ〕 小中一貫教育チューター設置事業					
事業の概要	◆目的 学習障害や注意欠陥多動性障害等教育上特別の支援を必要とする児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応した適切な支援を行うため、小中一貫教育チューターを設置する。 ◆事業費 9,699千円（一般財源）				
実績	◆配置状況（全6名） 三戸小学校2名 斗川小学校1名 杉沢小学校1名 三戸中学校2名				
成果と課題	◆成果 ・各校にチューターを配置し、教育上特別な支援を要する児童生徒に対し、学習活動上のサポートを行い、円滑な教育活動ができた。 ◆課題 ・特別な支援を要する児童生徒の数が増加傾向にある中、各校のチューターを充分活用できるように学校全体で配置及び支援計画を立てる必要がある。				
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小		

〔チ〕 就学指導委員会（三戸地方教育研究所）																																									
事業の概要	◆目的 三戸町および田子町の特別な支援を要する幼児・児童・生徒の適切な就学指導をすすめるとともに、特別支援教育の推進及び就学指導態勢の充実を図る。 ◆事業費 217千円（負担割合で按分 三戸町分64%）																																								
実績	◆（1）会議 事務説明会（1回）就学指導専門委員会（3回）就学指導委員会（4回）（2）審議状況（三戸町分） <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th colspan="2">通常学級在籍</th><th colspan="2">特別支援学級在籍</th><th>平成28年度 新入学児童</th></tr> <tr> <th></th><th>小学生</th><th>中学生</th><th>小学生</th><th>中学生</th><th></th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>審査対象者</td><td>3</td><td>0</td><td>2</td><td>2</td><td>7</td></tr> <tr> <td>特別支援学級判定者</td><td>2</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td></tr> <tr> <td>特別支援学校判定者</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td></tr> <tr> <td>通常学級判定者</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>5</td></tr> </tbody> </table> （3）合同バス遠足の実施 ・三戸町・田子町の特別支援学級に在籍する児童生徒を対象に「間木ノ平グリーンパーク」へ合同バス遠足を実施						通常学級在籍		特別支援学級在籍		平成28年度 新入学児童		小学生	中学生	小学生	中学生		審査対象者	3	0	2	2	7	特別支援学級判定者	2	0	1	2	1	特別支援学校判定者	0	0	1	0	1	通常学級判定者	1	0	0	0	5
	通常学級在籍		特別支援学級在籍		平成28年度 新入学児童																																				
	小学生	中学生	小学生	中学生																																					
審査対象者	3	0	2	2	7																																				
特別支援学級判定者	2	0	1	2	1																																				
特別支援学校判定者	0	0	1	0	1																																				
通常学級判定者	1	0	0	0	5																																				
成果と課題	◆成果 ・特別支援学校の先生方の助言をいただきながら、慎重な審議により、児童生徒の適正就学について答申を行うことができた。 ・就学先についてのみならず、有効と思われる支援方法についても協議することができた。 ◆課題 ・保護者との合意形成を図るのが難しいケースが多くあり、教育委員会や健康推進課、特別支援学校の協力を得ながら進めていく必要がある。																																								
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小																																						

〔ツ〕 特別支援教育コーディネーター事業				
事業の概要	◆目的 障害者を取り巻く法整備を含む環境の変化に伴い、特別な支援を要する児童生徒に対しての合理的配慮について実践事例を積み重ね、全ての児童生徒にとって分かりやすい授業を行うための一助とする。 ◆事業費 5,382千円（国庫委託5,382千円）			
実績	◆（１）合理的配慮協力員の配置（前八戸第二養護学校長 千葉隆史氏） 学校と関係機関との連携や、モデル校（三戸小・三戸中）の校内体制整備を推進するため、特別支援教育に関する専門的な知識や経験を有する「合理的配慮協力員」を配置。4～3月まで、計97日間。 （２）特別支援教育及び合理的配慮についての理解を深める全体研修会等の開催 6月8日 山形大学大学院教育実践研究科教授三浦光哉氏による巡回相談研修会（1回目）を3日間にわたり開催し、児童・生徒の状況を観察したのち、学級経営について指導助言をいただき、適切な指導、支援のあり方について研修した。 1月21日 巡回相談研修会（2回目）を2日間にわたり開催し、児童・生徒の状況を観察したのち、学級担任との個別面談による指導助言、全体会で障害種ごとの適切な指導、支援のあり方について研修した。 （３）運営協議会の設置及び開催（7月13日及び2月24日） 有識者からなる事業運営協議会を設立し、モデル校における各種の取組について指導・助言を受けた。			
成果と課題	◆成果 ・「合理的配慮」についての教職員の理解が促進するとともに、特性に応じた合理的配慮が通常学級でも有効であるという教職員内の認識が高まった。 ・校内組織での体制が確立され、コーディネーターを中心した会議運営が継続的になされている。 ・通級指導の工夫改善により7年生以降も継続的な指導が見込まれ、9年間の系統性のある体制が整備されつつある。 ・講演や研修の内容を踏まえ、児童生徒の特性に応じた指導方法が工夫改善されている。 ・進級や卒業後の進路について、選択肢を保護者に伝えることのできる教職員が増加した。 ・モデルスクール（三戸小・三戸中）のみならず、町内全ての学校における取り組みが推進されるなど波及効果が見られる。 ◆課題 ・国庫委託事業としては終了するが、障害者差別解消法が施行される平成28年度以降についても、教職員のインクルーシブ教育に係る専門性の向上のため、三戸地方教育研究所との連携による特別支援教育研修を継続するとともに、専門的立場から適切な助言指導を行う有識者を確保する必要がある。 ・広報誌や学校行事などの機会を活用し、特性に応じた支援の必要性について、地域や保護者への啓発を図る必要がある。			
事業の方向性	継続 改善	拡充 縮小	☐ ☒	

(8) 環境教育の推進

〔テ〕 立志科推進事業補助金交付事業（再掲）														
事業の概要	◆目的 独自の教科である「立志科」により心豊かでたくましい児童・生徒を育むため、各学校が地域に根ざした教育活動を推進するための事業に対し補助金を交付する。 ◆事業費 705千円（財源 一般705千円）													
実績	◆事業概要 （１）補助対象となる事業内容 自然環境や環境問題に関する体験を取り入れた教育活動 自然体験や社会奉仕体験を取り入れた教育活動 郷土理解に関わる体験を取り入れた教育活動 勤労生産・職業体験を取り入れた教育活動 上記を取り入れて行う、幼児・高齢者・障害者・外国人等や他校種等との交流活動 （２）各学校の活動内容 <table><tr><td>三戸小学校 （310千円）</td><td>斗川小学校 （190千円）</td><td>杉沢小学校 （100千円）</td></tr><tr><td>伝統食文化体験 伝統料理体験 勤労自然体験 昔の遊び体験 福祉体験 季節行事体験 蛇沼大黒舞の伝承 まつりばやしの伝承</td><td>学校農園野菜づくり 花いっぱい運動 魚の飼育、観察 米づくり体験活動 収穫祭 獅子舞伝承活動 昔の遊び道具体験活動</td><td>野菜づくり 世界の国とこんにちは 三戸ってすばらしい チューリップを育てよう おじいさんおばあさんとかよし</td></tr></table> <table><tr><td>三戸中学校 （79千円）</td><td>杉沢中学校 （26千円）</td></tr><tr><td>職場体験活動 資源回収体験活動 秋まつり体験活動</td><td>陶芸教室 職場体験</td></tr></table>				三戸小学校 （310千円）	斗川小学校 （190千円）	杉沢小学校 （100千円）	伝統食文化体験 伝統料理体験 勤労自然体験 昔の遊び体験 福祉体験 季節行事体験 蛇沼大黒舞の伝承 まつりばやしの伝承	学校農園野菜づくり 花いっぱい運動 魚の飼育、観察 米づくり体験活動 収穫祭 獅子舞伝承活動 昔の遊び道具体験活動	野菜づくり 世界の国とこんにちは 三戸ってすばらしい チューリップを育てよう おじいさんおばあさんとかよし	三戸中学校 （79千円）	杉沢中学校 （26千円）	職場体験活動 資源回収体験活動 秋まつり体験活動	陶芸教室 職場体験
三戸小学校 （310千円）	斗川小学校 （190千円）	杉沢小学校 （100千円）												
伝統食文化体験 伝統料理体験 勤労自然体験 昔の遊び体験 福祉体験 季節行事体験 蛇沼大黒舞の伝承 まつりばやしの伝承	学校農園野菜づくり 花いっぱい運動 魚の飼育、観察 米づくり体験活動 収穫祭 獅子舞伝承活動 昔の遊び道具体験活動	野菜づくり 世界の国とこんにちは 三戸ってすばらしい チューリップを育てよう おじいさんおばあさんとかよし												
三戸中学校 （79千円）	杉沢中学校 （26千円）													
職場体験活動 資源回収体験活動 秋まつり体験活動	陶芸教室 職場体験													
成果と課題	◆成果 ・立志科を通じて身につけさせたい10の能力の涵養につながった。 ・地域の方々とのふれあいを通じて、地域の学校支援意識の向上につながった。 ・地域に伝わる伝統・文化の継承の一助となっている。 ◆課題 ・計画どおりの活動を行えない学校がある。計画した活動が行えない場合は、事業計画に基づく変更を行うなど、目的が達成できるよう働きかける。													
事業の方向性	継続改善	○	拡充											
			縮小											

(9) 国際化に対応する教育の推進

〔ト〕 外国語指導助手（ALT）招致事業				
事業の概要	◆目的 小中一貫教育英語科の充実及び国際理解教育の促進、並びに地域における国際交流推進。 ◆事業費 9,694千円（財源 一般9,694千円）			
実績	◆（1）招致人数 2名 （2）配置校 町内全小中学校5校（小学校3校、中学校2校） （3）保育所等派遣 4施設、4回（学校長期休業中） （4）その他 生涯学習「英会話講座」講師、三戸秋祭り参加、中学生海外派遣研修英会話指導			
成果と課題	◆成果 ・児童生徒の英語に対する興味や関心、意欲が引き出され、特に小学校においては全ての英語科の授業で活用されており、その効果は非常に大きい。また、公民館英会話講座、秋祭り参加、ロータリークラブとの交流などを通し、地域の国際交流促進につながっている。 ◆課題 ・学校により十分に活用しきれていない場合が見られ、特に中学校での活用の在り方について検討または見直しをする必要がある。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔ナ〕 英語能力判定テスト				
事業の概要	◆目的 7～9年生の生徒が自らの英語力を的確に把握し、英語学習へのモチベーションを高めるとともに、学校が生徒の英語力の実態を分析し学習指導の改善・工夫に資する。 ◆事業費（補助事業の場合は補助金交付額） 114千円 財源（一般114千円）			
実績	◆概要 （1）受検対象生徒 三戸中7～9年生 222名 杉沢中8、9年生 6名 （2）受検クラス（ランク） TEST D（英検3級・4級・5級レベル） 英検の過去問からなる試験で、現在自分が英検の何級相当の力が身についているかを判断することが可能。			
成果と課題	◆成果 ・現在の自分の英語力を的確に把握することにより、英検本検定に向かい、級取得をする生徒が増加傾向にある。 ◆課題 ・生徒によっては、既に上級の級を取得していたり、取得済の級以下の判定が出る場合がある。			
事業の方向性	廃止 改善		拡充 縮小	平成28年度は、試験時間の短縮、フィードバックの充実を図るとともに、グローバルな指標「英検IBA CSEスコア」を導入した「英検IBA」を実施し、グローバル化に対応できる英語力の測定、学習の成果の確認や目標設定、英検受験級の決定など、英語学習のステップアップを多角的・効率的にサポートする事業として実施する。

〔二〕 中学生海外派遣事業					
事業の概要	◆目的 (1) 外国の生活習慣や文化に直接触れることによる視野の拡大と意識の向上 (2) ホームステイを通しての国際理解の醸成 (3) 異文化交流による自国文化の理解 ◆事業費 3,974千円 (財源 一般2,974千円・参加者負担1,000千円)				
実績	◆概要 (1) 派遣期間 11月1日(日)～11月7日(土) 4泊7日 (2) 派遣先 オーストラリア連邦タムワース(姉妹都市)、シドニー (3) 派遣人数 三戸中学校8学年10名、引率3名 計13名				
成果と課題	◆成果 ・ホームステイを中心とした現地生徒との交流体験によって、異文化理解や外国語学習への意欲向上、自主性や協調性といった意識の向上へとつながった。 ・なお、前年度に引き続き姉妹都市としての交流が深められたことで、今後もタムワースへ生徒の派遣が可能となった。 ◆課題 ・タムワースへの派遣は姉妹都市交流の意味合いも大きいことから、中学生の海外派遣という位置づけではなく、町の国際交流主管課とも協調していくことが大変重要である。 ・生徒の交流や派遣が永続的になるよう、派遣団の持つ役割をしっかりと認識し、国際交流を進めていく必要がある。				
事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

(10) 情報化に対応する教育の推進

〔ヌ〕 情報教育支援員設置事業					
事業の概要	◆目的 小学校における情報教育を円滑に進めるため、小学校にコンピュータ技能者を配置することにより、専門性の発揮による情報教育の推進を図るとともに、教員の負担の軽減を図る。 ◆事業費 1, 893千円（財源 一般1, 893千円）				
実績	◆①配置期間 平成27年4月1日 ～ 平成28年3月31日 ②配置学校 三戸小学校 1人 ③業務内容 ・学級単位のパソコン学習における担任教員とのチームティーチング ・パソコンを活用した調べ学習等への随時、個別指導 ・パソコン機器・ソフトの保守管理 ・教員へのパソコン指導及びデータ作成等の校務支援 ・学校ホームページの作成				
成果と課題	◆成果 ・パソコンのハード・ソフトの保守管理が常に万全であるため、クラス全員での授業においても機器・ソフトの不具合により授業に支障を来すことなく、円滑な授業を行うことができた。 ・保守管理のための教職員の負担軽減が図られ、教員が授業準備や児童との関わりの時間を確保することができた。 ・学校が必要とするデータの集計等のフォーム等を作成することにより、事務処理の効率化に繋がった。 ・教職員が使用するパソコンの定期的なメンテナンス実施により、パソコンを使用する事務処理環境が常に良好に保たれている。 ◆課題				
事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

(1 1) 安全・安心な学校環境づくりの推進

〔ネ〕 学校施設・設備整備					
事業の概要	◆目的 ・児童生徒に安全で快適な学習環境を提供するために施設・設備の整備及び適切な維持管理を行う。				
	◆事業費 1, 5 8 4 千円（一般財源 1, 5 8 4 千円）				
実 績	◆主な工事・修繕				
	①杉沢小中学校特別教室及び廊下網戸取付工事		3 9 9, 6 0 0 円		
	②三戸小学校特別支援教室扉設置工事		3 5 6, 4 0 0 円		
	③三戸小学校第一体育館前ギャラリー天窓修繕		2 3 3, 5 4 7 円		
	④杉沢小中学校体育館器具庫扉修繕		1 4 0, 4 0 0 円		
	⑤杉沢小中学校プール漏水修繕		1 1 0, 1 6 0 円		
	⑥三戸小学校照明器具取付工事		9 8, 8 2 0 円		
	⑦斗川小学校地下タンク汲み上げポンプ修繕		6 3, 2 0 1 円		
成果と課題	◆成果 ・前年度、学校から出された整備要望に基づき今年度事業として整備計画したもの及び学校施設設備点検の結果を踏まえて、計画通り実施できた。				
	◆課題 ・学校側からの要望事項は多種多様にわたるが、緊急度を勘案し計画的な予算計上に努め、修繕等を実施しなければならない。 ・斗川小・杉沢小中学校においては、施設の老朽化が進むにつれ高額を要する修繕等も増加傾向にあるため、改修の計画等も検討課題となってくる。				
事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

〔ノ〕 日本スポーツ振興センター災害共済給付事業				
事業の概要	◆目的 学校の管理下における児童生徒の災害（負傷、疾病、障害又は死亡）に係る医療費について、保護者に対し災害共済金の給付を行い保護者負担を軽減することにより、学校教育活動を円滑に実施することを目的とする。 ◆事業費 649千円（財源 一般402千円・その他246千円）			
実績	◆共済加入児童生徒数 小学生454名 中学生238名 合計692名 ◆共済掛金 一般児童生徒 945円（町負担額545円、保護者負担額400円） 準要保護児童生徒 945円（町負担額945円） 要保護児童生徒 65円（町負担額55円、国庫補助10円） ◆発生件数・給付金 小学校 発生件数38件（給付件数67件） 253,769円 中学校 発生件数40件（給付件数85件） 541,278円			
成果と課題	◆成果 ・全児童生徒が加入しており、児童生徒の負傷等に係る保護者の医療費負担軽減につながっている。 ◆課題 ・特になし			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔ハ〕 緊急時児童生徒搬送タクシー運行事業						
事業の概要	◆目的 ・児童生徒の学校管理下内における事故への迅速な対応のため、各学校から病院まで怪我をした児童生徒の搬送を行う。 <table><tr><td>運行条件</td><td>①生命の危険が伴う場合は救急車対応 ②学校、病院までの往復対象、教職員引率 ③原則町内各病院、状況によっては町外の病院可</td></tr></table> ◆事業費 17千円（一般財源17千円）				運行条件	①生命の危険が伴う場合は救急車対応 ②学校、病院までの往復対象、教職員引率 ③原則町内各病院、状況によっては町外の病院可
運行条件	①生命の危険が伴う場合は救急車対応 ②学校、病院までの往復対象、教職員引率 ③原則町内各病院、状況によっては町外の病院可					
実績	◆事故時における児童生徒の病院へのタクシーによる搬送 ・小学校 3回 ・中学校 2回					
成果と課題	◆成果 ・学校管理下内における生命の危険を伴わない事故について、児童生徒の病院への搬送をタクシーにより行っている。平成17年度以前は、教員の自家用車を使用しており、交通事故等への対応について問題があった。同事業の実施により児童生徒の事故対応が迅速かつ適正に行われている。					
事業の方向性	継続改善	○	拡充			
			縮小			

(12) 教員研修の充実

〔ヒ〕 校内研修等講師派遣補助事業（三戸地方教育研究所）				
事業の概要	◆目的 三戸町及び田子町の小中学校の校内研修等の講師に係る謝金・交通費などの経費を補助することによって校内研修等の活性化を図り、教職員の資質の向上と教育活動の充実に資する。 ◆事業費 15千円			
実績	◆実施校（三戸町分） ・斗川小学校 実施額 15千円（国際交流講師謝礼）			
成果と課題	◆成果 ・学校は校内研修などで外部講師を要請するにも、それに充てる予算がないのが現状である。そのため、各校の抱えている課題解決へ向け、専門性を持つ講師を要請することができないことが多い。この事業を活用することによって、より一層の研修の充実、教育活動の充実に資するものと考えている。 ◆課題 ・決まった学校での活用になっている。一層の周知が必要と考える。 ・金額の制限により活用しづらい分については、他の事業を活用できるよう工夫したい。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔フ〕 教育相談研修講座（三戸地方教育研究所）				
事業の概要	◆目的 不登校や集団不適応を未然に防止するための、児童・生徒への関わり方や、学級、集団づくりについて研修し、教員の指導力の向上に資する。 ◆事業費 53千円			
実績	◆（１）対象：小中学校教諭 （２）参加人数：16名（うち三戸町教員8名） （３）講師：荻間沢勇人（会津大学文化研究センター上級准教授） （４）内容：「Q－Uを用いた学級経営サポート」と題して、Q－Uの活用について具体的に講演・演習を行った。			
成果と課題	◆成果 ・今年度から実施したhyper-QUも含め、学級経営や個別支援へのQ－Uの活用や事例研究法について研修を行った。具体的で、即実践につながられる内容であり、時間が足りなかったという意見も寄せられた。いじめや不登校の未然防止についての活用も教えていただいた。 ◆課題 ・各学校1～2名の参加であり、学校全体での活用を推進していく必要がある。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

(13) 複式教育の充実

〔へ〕 複式授業研修（三戸地方教育研究所）				
事業の概要	◆目的 複式学級を持つ学校の教職員を対象に、授業研修と研究協議を実施し、教職員の資質向上と児童生徒の学力の向上に資する。 ◆事業費 0 円			
実 績	◆概要 ・複式学級をもつ学校の要請により、授業研修と研究協議及び工藤総括研究員による助言を行う予定であったが、学校では授業の単式化や個別指導に取り組んでおり、授業研修会としては実施しなかった。 巡回相談研修会等での訪問の際に授業を参観し、助言を行った。			
成果と課題	◆成果と課題 ・町内の複式学級を持つ学校では、各校の実態に合わせ、個別指導に力を入れたり、チューター等の活用により単式化で授業を進めたりと工夫して教育活動を実施している。複式の授業という形にとらわれず、実態に応じた助言を行っていきたいと考える。 次年度からは、校内研修等の機会に授業を参観するなど、学校に負担をかけない形で訪問の機会を増やしていきたい。			
事業の方向性	継続 改善		拡充 縮小	○

3. 社会教育指導の重点

(1) 一人ひとりの主体的な学習と社会参加の推進

〔ア〕 公民館講座				
事業の概要	◆目的 町民の学習ニーズに応え、町民の自発的な学習意欲を高め、自己に適した手段・方法を、自ら選択できるよう学習機会を提供し、生涯学習の推進を目的とする。 ◆事業費 546千円（財源 一般546千円）			
実績	(1) 講座数 12講座（新規講座4） (2) 講座内容 ①書道 ②ステンドグラス ③ルーシーダットン ④ストレッチ ⑤リズム体操 ⑥英会話 ⑦生涯スポーツ ⑧料理教室 ⑨バルーンアート ⑩フィットネスエクササイズ ⑪護身術 ⑫フラダンス (3) 受講者数 92名（延べ599名） (4) 講師謝金 447,000円（7講師のべ59回 一回あたり3,000円～10,000円） (5) 委託費 99,000円（2講座：軽スポーツ24,000円、料理教室75,000円）			
成果と課題	◆成果 ・ニーズに応えた講座を開設し、町民の学習意欲を高めることができた。 ・講座の回数を増やして欲しい等、今後の活動に期待が持てる講座が多く、サークルへ移行する講座も出てきた。 ◆課題 ・受講する人が10名以下の講座もあり、講座内容や周知方法を見直していかなければならない。 ・開設から年数が長い講座もあるので、サークルへの移行を促して独立させ、新規の講座を多く開設していきたい。			
事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

〔イ〕 公民館分館講座委託事業											
事業の概要	◆目的 各分館が地域性を生かしながら、住民の健康増進、教養の向上、伝統文化の継承、世代間交流等を通して地域住民の親睦を図り、もって豊かな地域づくり、まちづくりに寄与する。										
	◆事業費 1, 1 4 4 千円（財源 一般1, 1 4 4 千円）										
実 績	◆（１）分館数 1 1（梅内、泉山、目時、豊川、斗内、大舌、袴田、下田、貝守、杉沢、蛇沼）										
	（２）講座数 4 2 講座（全分館分）										
	（３）主な講座内容 世代間交流、手芸、視察研修、料理講習、健康教室、軽スポーツ体験、農業講座、伝統芸能伝承、防災教室、婦人研修会										
	（４）参加者数 1, 3 7 0 名（延べ人数）										
	（５）講座委託料 1 分館 5 0 千円										
	（６）分館職員報酬 分館長 3 0 千円 主事 1 2 千円 書記 1 2 千円										
	（７）分館講座一覧										
	<table><tr><th>分 館 名</th><th>講 座 名</th><th>講 座 内 容</th></tr><tr><td rowspan="3">泉 山</td><td>交通安全キャンペーン</td><td>運転手へ安全運転の呼びかけ</td></tr><tr><td>ふれあい旅行</td><td>親子とのふれあい</td></tr><tr><td>籠作り</td><td>りんご収穫用の籠作り</td></tr></table>		分 館 名	講 座 名	講 座 内 容	泉 山	交通安全キャンペーン	運転手へ安全運転の呼びかけ	ふれあい旅行	親子とのふれあい	籠作り
分 館 名	講 座 名	講 座 内 容									
泉 山	交通安全キャンペーン	運転手へ安全運転の呼びかけ									
	ふれあい旅行	親子とのふれあい									
	籠作り	りんご収穫用の籠作り									

		りんご剪定講座	剪定技術の習得
		神楽伝承講座	伝統芸能の継承
	梅 内	軽スポーツ講座	軽スポーツを楽しむ
		工芸教室	エコバック作り
		健康料理教室	高齢者にやさしい料理
		健康教室	「健康について」の講習会
	目 時	親子レク	ニュースポーツ、花火
		3世代交流会	もちつき、室内スポーツ
		農業講座	りんごの選定
		健康教室	料理、体操
		教養教室	婦人研修
	豊 川	教養教室	地引網体験
		ふれあい教室	3世代交流
		教養教室	料理教室
		スポーツ教室	室内スポーツ
	袴 田	健康教室	シニア元気アップフェスタ
		長寿会	お楽しみ会
		軽スポーツ教室	パークゴルフ大会
		料理教室	減塩料理
		交通安全教室	三戸警察署による講話
	下 田	手芸教室	編み物
		健康教室	塩分、カロリー控えめ
		料理教室	和食料理
		ふれあい教室	レクリエーション
	貝 守	スポーツ大会	スポーツを楽しむ
		親子・夫婦交流会	軽スポーツによる交流
		婦人研修	新聞社視察
	杉 沢	ふれあい教室	室内スポーツ、料理
		料理教室	ギョーザづくり
		手芸教室	毛糸で小物作り、古布でマット作り
	蛇 沼	登山教室	登山を通じた地域間交流
		料理教室	高齢者にやさしい料理
		健康教室	健康についての講話
		写真教室	美を楽しむ
	大 舌	環境整備事業	花植え、草刈り等
		手芸教室	籠作り等
		健康教室	血圧測定等
		高齢者の集い	会食、座談会
		防災訓練	避難訓練、初期消火訓練
成果と課題	◆成果 ・各分館の自主的な企画により地域性や住民のニーズを踏まえた多様な講座が開かれている。 ・一人暮らしの高齢者などの交流の場ともなっており、地域の活性化に繋がっている。 ◆課題 ・毎年恒例となっている講座が多く、受講生を増やしていくためにも新しい講座の開設を促していく。		
事業の方向性	継続	拡充	
	改善	○ 縮小	

〔ウ〕 子ども公民館講座				
事業の概要	◆目的 普段、公民館を利用することが少ない子どもたちに、休み期間中を利用し、ものづくり等様々な体験をとおして、仲間とのふれあいや交流を深めることにより、健全な子どもの育成の一助とする。 ◆事業費 10千円（財源 一般10千円）			
実績	◆「子ども公民館講座2016」として2月に1回開催した。 講座名：ダンス体験スクール Let's enjoy dancing 日 時：平成28年2月7日（日） 9：30～12：00 場 所：三戸町中央公民館 ホール 参加費：無料 講 師：冷水 堯（ダンス活動名：じんべえ） 鳴海 和樹（ダンス活動名：ラトゥー） 講師謝金：5,000円×2名 受講児童数：7人（三戸小）			
成果と課題	◆成果 ・ダンスの基礎を学ぶことで、リズムに合わせて体を動かす楽しさを学んだ。 ・講師は各方面で教えている経験から進行がスムーズであり、子どもたちも終始飽きることなく楽しくダンスを踊っていた。 ◆課題 ・各方面に周知したが参加者が少なかった。今後は広報や新聞社等を活用し広く公民館行事をアピールしていきたい。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔エ〕 三戸町立図書館歴史講座				
事業の概要	◆目的 三戸町を始めとする南部地域の歴史や文化への町民の認識を深めることを目的とする。 ◆事業費 100千円（一般財源100千円）			
実 績	実施回数	10回	受講者総数	92 名
	5月16日	塩の道	一戸胤夫	13名
	6月20日	近世青森県「農民の生活史」	金崎公正	5名
	7月18日	幕末の南部藩「藩主と檜山佐渡」	三浦清治	11名
	8月22日	縄文人の心Ⅰ（親心）	玉木信興	11名
	9月19日	旧盛岡藩士の道	一戸胤夫	8名
	10月17日	奥の細道	金崎公正	8名
	11月21日	南部藩の貨幣経済と密銭	三浦清治	6名
	12月19日	明治維新と斗南藩	大庭紀元	13名
	1月16日	開拓への道	一戸胤夫	9名
2月20日	南部家の夫人と姫たち	三浦清治	8名	
成果と課題	◆成果 町内や周辺の市町村からの参加者があり、生涯学習の場となっている。 ◆課題 受講者の高齢化により、参加者が減少傾向にある。			
事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

〔オ〕 わくわく城山楽園体験スクール				
事業の概要	◆目的 子どもたちが遊びや自然体験をはじめとした様々な体験活動を行うことにより、親や家族及び仲間とのふれあいや交流を深めるとともに、驚きや感動を体験させて、自然や環境を大切にする心や豊かな感性を育むことを目的とする。 ◆事業費 30千円（一般財源30千円）			
実績	◆第1回 総合格闘技体験教室 （1）開催場所 パラエストラ八戸道場 （2）参加者 5組10名 （3）内 容 格闘技で身体づくり ◆第2回 種差自然の家 自然体験活動出前講座 （1）開催場所 中央公民館 （2）参加者 13名 （3）内 容 せんべい焼・ぐにゃぐにゃ凧作り ◆第3回 和食料理教室 （1）開催場所 アップルドーム （2）参加者 4組8名 （3）内 容 だし活を利用した料理教室			
成果と課題	◆成果 親子で普段できないことを体験し、豊かな感性を育むことができた。 ◆課題 民間会社やNPO、学校、PTA、子ども会等の団体が企画した体験活動が身近に様々なためか、参加者が増えない。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	子ども公民館講座や農業小学校、子ども会、ゆりかご等との共催やス クラブも今後の検討事項である。

〔カ〕 高齢者学級寿教室				
事業の概要	◆目的 高齢者が心身ともに健康で生きがいある生活を送ることができるよう高齢者の生活課題に関連した学習機会や喜びや楽しさを感じられる機会を提供する。			
	◆事業費 503千円（財源 一般503千円）			
実 績	◆実施概要 (1) 学級生数102名（男4名・女98名） (2) 最高齢者 90歳 平均年齢76歳 (3) 学習会の実施状況 ①第43回開級式 平成27年4月22日（水） 77名 ②「三戸町の介護保険、いきいき百歳体操」 平成27年5月27日（水） 65名 ③「室内スポーツで身体を動かそう」 平成27年6月24日（水） 54名 ④「イルカショーを見学にしよう」 平成27年7月29日（水） 60名 ⑤「パークゴルフ～自然の中で遊ぼう」 平成27年8月27日（木） 45名 ⑥「ヨガから学ぶストレッチ健康法」 平成27年9月30日（水） 49名 ⑦「秋の紅葉を迎えにいこう」 平成27年10月27日（火） 38名 ⑧「落語を聞いてみよう」 平成27年11月25日（水） 50名 ⑨「議会を傍聴しよう」 平成27年12月7日（月） 49名 ⑩「夢に向かって克己邁進」 平成28年1月27日（水） 51名 ⑪「三戸町長お話会」 平成28年2月24日（水） 61名 ⑫第43回閉級式 平成28年3月30日（水） 72名 (4) クラブ活動の実施 書道クラブ、グラウンドゴルフクラブ、舞踊クラブ			
	成果と課題	◆成果 ・学級生自らが学習内容を企画しているため、学習会への参加状況が良い。 ・高齢者が集う機会を提供することにより、交流が生れ、様々な生涯学習への参加が促されている。 ・仲間とふれあい楽しみながら、学習会に参加することができ、高齢者の生きがいづくりの場となっている。 ◆課題 ・学習会の内容によって、参加者数にばらつきがあった。毎回一定数以上の参加者確保の為、学習会内容、開催日時等を考慮していきたい。		
事業の方向性	継続改善	○	拡充	
			縮小	

〔キ〕 公民館まつり開催事業				
事業の概要	◆目的 公民館を学習拠点とした生涯学習活動団体に、発表の場を提供し、その成果を広く町民に紹介する機会を設けることにより、生涯学習の推進を図ることを目的とする。 ◆事業費 10千円（財源 一般10千円）			
実績	◆作品展示 （１）期 間 平成27年11月13日～16日（子ども文化作品展と併催） （２）参加団体 公民館講座、公民館分館、公民館サークル、寿教室、三戸版画工房 （３）来場者数 延べ1,021人（4日間合計） （４）展示作品 書道、絵画、版画、パッチワーク、手作り籠、ステンドグラス、バルーンアート、押し花、トールペイント			
成果と課題	◆成果 ・公民館講座の成果発表の場の機会を与えることができた。 ・子ども文化作品展と併催したことで、より多くの町民に活動の成果を見せることができた。 ◆課題 ・展示作品が少ない、また参加団体が固定しているので、参加団体の呼びかけや多様な展示作品の掘り起こしが必要である。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

（２）次代を担う青少年の育成

〔ク〕 ふれあい活動事業				
事業の概要	◆目的 子どもからお年寄りまで、早朝にあいさつをかわし、ふれあいながら、ごみ拾い、草取りや落ち葉拾いなど清掃・環境美化活動を行うことにより、各人が、自分の住んでいる地域を愛する心を育てるとともに、きれいで快適な町づくりに資するため実施するものである。 ◆事業費 296千円（財源 一般296千円）			
実績	◆年3回、花植え、ゴミ拾い、河川敷清掃、草刈り等の環境美化活動を実施。 第1回活動：平成27年 6月14日（日） 第2回活動：平成27年 8月 2日（日） 第3回活動：平成27年10月 4日（日）			
成果と課題	◆成果 ・活動は定着しており、地域コミュニティ強化の一助となっている。 ◆課題 ・子どもたちの参加が少ないので、各町内子ども会の会長に呼びかける等、参加の促進を図る。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔ケ〕 さんのへ農業小学校支援事業				
事業の概要	◆目的 子どもたちに農業体験を通して、働くこと、協力し合うことの大切さを教えたりたくましい精神力・創造力を身につけさせるため、三戸食農推進協議会が行う農業小学校運営事業の運営を支援する。 ◆事業費 450千円（財源 一般450千円）			
実績	◆さんのへ農業小学校事業 ・実施日数 9日（月1回程度、土曜日の午前中に実施） ・登録児童 21名（南部町、八戸市含む） ・事業内容 農作業5回、販売体験1回、加工体験1回、式典2回			
成果と課題	◆成果 ・年間を通じて、多品種にわたる作物の植付、管理、収穫、販売、加工体験等を行い、充実した体験活動を行うことができた。 ・班編制による異年齢間の交流やグループ作業によりリーダーシップや積極性、協調性や思いやりの心を育むことができた。 ◆課題 ・学校行事、地域行事と重複する授業日があるため参加できない児童がいる。 ・授業日以外の作物の生育管理を職員が行うため、多忙である。 ・栽培の難易性や収穫時期などの条件により栽培品目の選択が難しい。			
事業の方向性	継続 改善		拡充 ○ 縮小	圃場の変更、事業費の縮小等、事業内容の見直しが必要である。

〔コ〕 三戸町子ども会育成連絡協議会支援事業				
事業の概要	◆目的 子ども会育成連絡協議会の事業を支援し、子どもの健全育成を推進する。 ◆事業費 310千円（財源 一般310千円）			
実績	◆三戸町子ども会わくわく（リーダー）キャンプ研修会 開催日 平成27年7月18日（土）～20日（月） 場 所 新郷村平子沢キャンプ場 参加児童 19人 ◆子ども会秋フェスタ in 金洗沢 開催日 平成27年10月4日（日） 場 所 金洗沢公園 参加児童 26人 ◆子ども会大会 開催日 平成28年2月14日（日） 場 所 町民体育館 参加児童 53人			
成果と課題	◆成果 ・少子化により、地域での遊びや集団による活動が少なくなっている中、学区を越えた異年齢間の活動を通じて、子どもの自主性や社会性の育成が図られている。 ◆課題 ・事業内容のマンネリ化を改善していく必要がある。			
事業の方向性	継続 改善		拡充 ○ 縮小	協議会役員による計画、準備、運営する形が進んできているので、今後も教育委員会職員が深く介入することなく、子ども会で自立した運営がなされるようにしたい。

〔サ〕 成人式開催事業				
事業の概要	◆目的 若者たちの門出を祝い励ますと共に、社会を担っていく主体としての自覚を促す。 ◆事業費 268千円（財源 一般268千円）			
実績	◆平成28年三戸町成人式 実行委員会打ち合わせ会 開催日 平成27年11月12日（木） 場 所 三戸町中央公民館 新成人 2人 ◆平成28年三戸町成人式 開催日 平成28年1月10日（日） 場 所 三戸町民体育館 新成人85人（対象者 120人）			
成果と課題	◆成果 ・新成人による成人式プロジェクトチームを組織し、企画・運営させることで、主体的に成人式に進んで社会参加しようとする意識の高揚を図ることができた。 ・式典、セレモニーなどにおいて、新成人へ役割を持たせ、成人としての自覚を持たせることができた。 ◆課題 ・インターネット等を活用して、出席率の向上を図る。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

（３）地域を支える人材の育成

〔シ〕 三戸町人材活用講師派遣事業				
事業の概要	◆目的 町内小中学校での授業等教育活動の円滑な運営に資するため、各種技能や知識、経験を有する町民を講師として学校に派遣するものである。 ◆事業費 60千円			
実績	◆小中一貫三戸学園三戸小学校 開催日 平成27年10月1日（木）から11月19日（木） 計8回 派遣講師 3名 派遣内容 紙版画制作の支援 ◆小中一貫三戸学園斗川小学校 開催日 平成27年10月29日（木） 派遣講師 2名 派遣内容 なべっこ団子づくりの指導 開催日 平成27年11月27日（金） 派遣講師 1名 派遣内容 「長く続いた戦争と人々の暮らし」の出前授業 ◆杉沢小中学校 開催日 平成27年7月21日（火）から平成28年3月25日（金） 計8回 派遣講師 1名 派遣内容 学校行事におけるピアノ演奏			
成果と課題	◆成果 各学校の要望に応じて講師を紹介することができた。 ◆課題 今回紹介した講師をもとにリストの作成を行い、今後の講師派遣に活かしたい。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

(4) 学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上

〔ス〕 家庭教育学級開催事業					
事業の概要	◆目的 参観日等、多くの親が集まる様々な機会において、家庭教育に関する学習機会を提供し、家庭の教育力の向上を図ることを目的とする。				
	◆事業費 77千円（財源 一般77千円）				
実 績	◆概要				
	実施団体		人数	学習内容	講師等
	久川保育所		50名	親子で楽しむレクリエーション	県レクリエーション協会
	斗川児童館		17名	心を育てることばの力	八戸学院短期大学
	ミューズ保育園		22名	絵画から読みとる子どもの心	保育専門学校 教授
	中央児童館		70名	親子で楽しむヒップホップ	さんのヘスポーツクラブEnjoy
	いずみ幼稚園		50名	親子3B体操教室	日本3B体操協会
	小中一貫三戸学園 三戸小学校		160名	車いすバスケの体験指導と講演	八戸第二養護学校
	紫苑幼稚園		13名	あおもり親楽プログラムⅠ－4 「ケンタくんのあくび」	家庭教育アドバイザー
	杉沢小中学校		25名	中学校卒業までに身につけておきたいこと	八戸市児童科学館 館長
	小中一貫三戸学園 斗川小学校		40名	子どもは育てたように育つ	八戸市児童科学館 館長
	※9団体 447名				
成果と課題	◆成果 ・実施団体がそれぞれの施設の固有の課題について解決するため、テーマを幼児や児童、生徒や保護者の状況に応じた内容に設定することにより、効果的な学習が実施できた。				
	◆課題 ・次年度もより多くの団体に事業を活用してもらう為呼びかけを行う。				
事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

〔セ〕 放課後子ども教室推進補助事業				
事業の概要	◆目的 子どもを取り巻く環境の変化、家庭や地域の子育て機能・教育力の低下が指摘されるなか、地域住民の協力を得て、放課後に子ども達が安全で安心して活動できる居場所づくりを推進することを目的として実施する放課後子ども教室の運営に必要な補助金を交付する。 ◆事業費 1,086千円（財源 県 723千円、一般 363千円）			
実績	◆三戸小なかよし教室運営 (1)登録児童数14人、教育活動推進員6人、コーディネーター1人 (2)参加児童数 延べ 795人 (3)運営日数 年間 62日（水、金） (4)活動内容 宿題、ドリル、ボール遊び、おにごっこ、ぬり絵、囲碁、他 (5)活動場所 中央児童館 ◆杉沢小子ども教室 (1)登録児童数9人、教育活動推進員1人、コーディネーター1人 (2)参加児童数 延べ 400人 (3)運営日数 年間 71日（火・水・参観日） (4)活動内容 宿題、ドリル、読書、ボール遊び、ぬり絵、他 (5)活動場所 杉沢小中学校			
成果と課題	◆成果 毎月実行委員会を開催し、児童の状況や運営方法の検討、安全管理意識の確認などを行うことにより、安全で効率的な運営が行われた。 ◆課題 三戸小なかよし教室は、三戸小学校の校舎改修工事により、平成24年度6月より中央児童館で運営しているが、今後は開催場所の検討が必要である。			
事業の方向性	継続 改善	☐	拡充 縮小	

〔ソ〕 三戸町少年指導センター事業				
事業の概要	◆目的 少年指導機関、団体及び民間有志が少年の非行防止に必要な業務を効果的に行うため、合同活動の拠点として三戸町少年指導センターを設置し非行防止活動を行う。 ◆事業費 253千円（財源 一般253千円）			
実績	◆三戸町少年指導センター (1)研修会 1回 (2)一斉巡回活動 3回（春まつり、夏期、秋まつり）のべ63名巡回活動に参加 (3)随時巡回活動 通年 (3)少年指導委員 34名 ◆主な事業費 委員報酬 194,000円（一斉巡回63名×@2,000 + 随時活動34名×@2,000） 食糧費 16,500円（春まつり一斉巡回賄費 33名×@500）			
成果と課題	◆成果 夏休みや祭り時等に裏路地や廃墟等、人目につかない場所を中心に一斉巡回を行っており、少年非行の抑制に繋がっている。 ◆課題 一斉巡回においては、各学校PTAや防犯関係団体も巡回をしているので、連携・協力により効率化を図っていく。			
事業の方向性	継続 改善	☐	拡充 縮小	

〔タ〕 青少年健全育成三戸町民会議運営事業				
事業の概要	◆目的 青少年が健康で人間性豊かに成長することを願い、青少年健全育成町民会議を設置し町内各関係機関との連携のもと、青少年の健全育成を推進する。 ◆事業費 100千円（財源 一般100千円）			
実績	◆青少年健全育成三戸町民会議総会 青少年を取り巻く社会環境の複雑化や青少年問題の深刻化を受け、関係団体が一堂に会し、「地域の子どもは地域で守り育てる」という共通の目標を再確認し、青少年の現状を理解した。 ◆青少年健全育成三戸町民大会 実施日 平成27年12月6日 場 所 三戸町中央公民館ホール 内 容 体験発表 「言葉の力」小中一貫三戸学園三戸中学校8年生 「いま、目を向けるべき問題とは」杉沢小中学校9年生 基調講演 「力のあるいい男といい女に」 講 師 八戸学院光星高等学校 校長補佐 小野寺 實 氏			
成果と課題	◆成果 ・中学生の体験発表を聞き、小中一貫校の現状や、現在の青少年の心境を知ることができた。 ・青少年の健全育成の根幹となるのは家庭であるという基調講演を聞き家庭教育の重要性を改めて認識した。 ・今年度はあいさつ運動の回数を増やし、多くの大人たちが参加したことで、あいさつの大切さを子どもたちに伝えることができた。 ◆課題 ・町民大会は、毎年民生委員の定例会を兼ねて開催しているが、参加者のほとんどが民生委員であり、一般町民の参加が少ない。しかし、年々参加者は増えている。さらに周知方法・大会の内容等を見直していきたい。			
事業の方向性	継続 改善	○ □	拡充 縮小	

(5) 社会教育推進のための基盤整備

〔チ〕 三戸町中央公民館管理運営				
事業の概要	◆目的 生涯学習の中核的施設として、町民のために実際生活に即した各種の事業を実施し、町民の教養の向上及び健康増進並びに住民相互の交流が図られるよう、施設の適切な維持管理及び整備充実を図るものである。 ◆公民館運営費総額 22,511千円（財源 一般22,151千円 特定360千円） ◆公民館使用料収入 324千円			
実績	◆概要 ・車輛整備修繕 172千円 ・給水管漏水修繕 100千円 ・ボイラー点検整備 103千円 ・年間利用者人数 11,298人（平成26年度 12,489人）			
成果と課題	◆成果 ・公民館建物は建築後48年経過し、古い建物ではあるが適切な維持管理を行い、住民には特に支障などなく利用して頂くことができた。 ◆課題 ・施設の老朽化が進み、修繕箇所も多いため修繕費が増大傾向にある。 ・新年度においては、公民館外壁の改修工事を予定している。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔ツ〕 社会教育関係団体補助事業				
事業の概要	◆目的 社会教育活動の推進を目的に実施される事業に対し、補助金を交付することにより、事業の円滑かつ有効的な推進の一助とするものである。 ◆事業費 1,090千円（財源 一般1,090千円）			
実績	◆三戸町連合婦人会事業・・・・・・・・・・・・・・・・ 260千円 ◆三戸町子ども会育成連絡協議会事業・・・・・・・・ 310千円 ◆三戸町文化協会事業・・・・・・・・・・・・・・・・ 400千円 ◆三戸町幼児育成連絡協議会事業・・・・・・・・ 100千円 ◆三戸町凧づくりを楽しむ会「凧づくり講習会」事業・・・・ 20千円 合計 1,090千円			
成果と課題	◆成果 ・補助金の交付により各団体の事業が円滑に推進され、社会教育活動推進の一助となっている。 ◆課題 ・会員の減少・高齢化が進んでおり、新規会員の加入促進が課題となっている。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔テ〕 サークル活動への支援				
事業の概要	◆目的 自主的な学習活動の推進の観点からサークル活動を支援するため、活動場所として公民館施設の提供等の支援を行う。 ◆事業費 0 円			
実 績	◆公民館利用サークル 団体数 2 1 つばみ会、みつば会、よさこい三戸チーム、カ・マイレ・フラ、KOKOCLUB、男の料理、三戸民俗芸能保存会、南部民俗芸能保存会、三戸町ナニャドヤラ保存会、押し花、斗内ナニャドヤラ保存会、寿舞踊クラブ、三戸朗吟会、大正琴みちのく会、絵画、ギター、キャンパスの会、トールペイント教室、三戸菊クラブ、手話、寿書道クラブカラオケ、合気道			
成果と課題	◆成果 自主的サークル活動団体は、町民に活動を紹介する機会が少ないことから、三戸町総合文化祭・公民館まつり開催時に住民への周知や会員勧誘を支援するためのサークル紹介ポスターを作成し掲示した。また、活動支援のため公民館使用料等の減免を行った。 ◆課題 町広報誌に紹介するなどしてサークル活動の周知・推進を図る必要がある。			
事業の方向性	継続 改善	☐	拡充 ☐	☐

〔ト〕 三戸町立図書館の運営				
事業の概要	◆目的 三戸町立図書館は自由で公平な資料の提供を中心とする諸活動によって、町民の教養、調査及びレクリエーション等に奉仕することを目的とする。 ・ 県内図書館との相互貸借、移動図書・配本を含む図書資料の貸し出し。 ・ 図書資料の選書、除籍、講座等の実施。 ・ レファレンス(利用者の調査への対応)の実施 ・ 祝日開館の実施。 ◆事業費 2 5, 8 7 5 千円 (財源 一般 1 9, 7 7 5 千円、起債 6, 1 0 0 千円)			
実 績	◆概要 年間開館日数 2 9 1 日 (内祝日開館 1 2 日) 年間貸出冊数 2 6, 3 0 4 冊 (前年度 2 5, 7 6 1 冊) 年間入館者数 1 4, 8 8 6 人 (前年度 1 6, 2 5 6 人) 蔵 書 冊 数 4 4, 9 9 4 冊 (前年度 4 3, 7 5 0 冊)			
成果と課題	◆成果 県内図書館のコンピューター化により、相互貸借件数が増した。 これまで、午後 2 時に開催していた「おはなしの部屋」を初めての取り組みとして 1 2 月下旬に午後 6 時に行い 3 0 人の参加者があった。 ◆課題 現在使用している移動図書館車は昭和 5 2 年製 (38 年経過) で老朽が著しい。			
事業の方向性	継続 改善	☐	拡充 ☐	☐

(6) 生涯スポーツの振興

〔ナ〕 総合優勝制町内対抗スポーツ大会				
事業の概要	◆目的 町民の体力、健康保持並びに増進を図り、町民相互の交流・親睦を図る。また、スポーツ人口の底辺拡大とスポーツの日常化を図る。 ◆事業費 720千円（財源 一般720千円）			
実 績	◆概要			
	①ユニカール	平成27年5月13日（水）～15日（金）	22町内参加	
	②グラウンドゴルフ	平成27年7月 5日（日）	10町内参加	
	③ペタンク	平成27年7月16日（木）～17日（金）	16町内参加	
	④町民大運動会	平成27年9月27日（日）	20町内参加	
	⑤バグダー	平成27年11月20日（金）	14町内参加	
	⑥ビニールバレーボール	平成28年1月20日（水）～22日（金）	14町内参加	
	⑦ラージボール卓球	平成28年2月18日（木）～19日（金）	15町内参加	
	⑧ネオホッケー	平成28年3月 9日（水）～11日（金）	18町内参加	
成果と課題	◆成果 ・町民相互の交流、親睦が図られ連帯意識を高めることができた。 ・町民の体力、健康の維持、増進を図ることができた。 ・各町内の親睦会等にスポーツを取り入れ、交流することができた。 ◆課題 ・同じ町内会の不参加が目立ち、積極的な参加を促す必要がある。 ・参加者が特定のメンバーとなっている町内会が多く見受けられるため、老若男女が参加できる競技を採用するとともに、各競技におけるチームの年齢構成や男女枠の設定等についても参加要項を見直すなどして、より多くの町民が参加できるよう工夫する必要がある。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔ニ〕 町民歩け歩け運動				
事業の概要	◆目的 身体に負担をかけず、運動に慣れていない人にも理想的な運動方法であると同時に、肥満予防など健康効果が期待できるなど、だれもができる健康づくりのひとつであるウォーキングを通して、健康づくりの推進及び参加者相互の交流を図る。 ◆事業費 15千円			
実績	◆概要 実施日 平成27年8月23日（日） 場 所 十和田市奥入瀬溪流 参加者 45名			
成果と課題	◆成果 - 当日は雨で足元が悪い中ではあったが、晴れた日と違った奥入瀬溪流の景色を見ながらそれぞれ楽しみながらウォーキングすることができた。 - 参加者同士の交流や親睦を深めることができた。 ◆課題 - 前日から雨が降り、何件か実施するかどうかの問い合わせがあったが、事前にチラシには雨天決行にしていたので、当日キャンセルする参加者もいなかった。今後は大雨や災害がおきた場合などどのような対応をするかを検討する必要がある。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔ヌ〕 三戸町スポーツ賞表彰				
事業の概要	◆目的 三戸町スポーツ賞表彰規則に基づき、当町のスポーツの振興発展のため功績のあった個人・団体又はスポーツ活動において優秀な成績を収めた個人・団体を表彰するとともに、町民へ受賞者を紹介し、町全体でその功績を讃えるものである。 ◆事業費 103千円（一般財源）			
実績	◆【スポーツ功労賞】 1個人 【スポーツ賞】 8個人・ 【スポーツ奨励賞】 9個人・3団体 合 計 18個人・3団体			
成果と課題	◆成果 各種スポーツ競技において指導者として貢献した方、あるいは競技者として優秀な成績を収めた方々を表彰し、町広報誌等により広く町民に周知することにより、スポーツ競技者等のさらなる意欲の向上に寄与すると共に町民のスポーツに関する興味・関心の拡大につながった。 ◆課題 推薦及び審査事務を円滑に進めるため、表彰基準をより明確に、かつ、解りやすく改める必要がある。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔ネ〕 各種スポーツ大会補助事業				
事業の概要	◆目 的 各体育団体が行うスポーツ大会の開催に対する補助を目的とする。 ◆事業費 520千円（財源 一般520千円）			
実績	◆概要 (1) 桜まつりマラソン大会 ・補助金交付額 230千円 ・実施日 平成27年5月3日 ・参加者数 336人 (2) 鏡里杯相撲大会 ・補助金交付額 290千円 ①第42代横綱鏡里杯三戸地方小学生相撲大会 ・実施日 平成27年6月14日 ・参加者数等 【団体戦】男子11チーム(36人)、女子6チーム(17人) 【個人戦】男子36人、女子17人 ②第42代横綱鏡里杯南部地区小中学生相撲大会 ・実施日 平成27年9月5日 ・参加者数等 【団体戦】小学生10チーム(55人)、中学生6チーム(17人) 【個人戦】小学生61人、中学生20人			
成果と課題	◆成果 補助金の交付により、スポーツ大会が円滑に実施され、多くの住民、小中学生が大会に参加し、競技を楽しみスポーツに親しむことができた。 ◆課題			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔ノ〕 三戸町体育協会支援事業				
事業の概要	◆目的 三戸町体育協会の活動を支援し、町民の体育振興を図ることを目的とする。 ◆事業費 1,800千円（財源 一般1,800千円）			
実績	◆補助金交付額 1,800千円 ◆実施事業 (1) 競技団体等への活動費補助（総額895千円） 20の競技団体及びスポーツ少年団への補助金交付 (2) 大会派遣 三戸郡総合体育大会（243人）、北奥羽総合体育大会（郡代表34人） 青森県民体育大会（94人） (3) 研修会等の開催 ①スポーツ教室開催 開催種目 ソフトテニス（11人）、剣道（12人）、相撲、（10人） バレーボール（3人） 登録児童・生徒数 36人 ②スポーツ研修会 実施日 平成27年8月1日 場 所 ジョイワーク三戸 講 師 津村 柁広 氏 (チームフロー認定メンタルプロコーチ) 参加者数 20人 (4) ノルディックウォーキング体験会 実施日 平成27年9月21日（種差海岸遊歩道、13人参加） 平成27年10月24日（関根ふれあい公園・城山公園、12人参加） 平成27年11月1日（八戸市南郷 青葉湖、16人参加） 平成28年3月5日（アップルドーム、22人参加） 平成28年3月13日（町民体育館、18人参加） 講 師 日本ノルディックウォーキング協会オフィシャルインストラクター 八戸 由美子 氏			
成果と課題	◆成果 各加盟協会へ補助金を交付することにより、大会やスポーツ教室等事業が積極的に展開され、競技スポーツの振興が図られている。 ◆課題 体育協会に加盟する競技団体の会員の高齢化が進んでおり、新規会員の加入促進が課題となっている。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔ハ〕 スポーツ団体等大会出場助成事業				
事業の概要	◆目的 東北大会以上の大会に出場する町民のため、その費用の一部を助成する。 ◆事業費 0千円			
実 績	東北大会以上の大会に出場する団体がなかったため、助成実績なし。			
成果と課題	◆成果 助成申請・実績がなかったため、特になし。 ◆課題 助成申請・実績がなかったため、特になし。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔ヒ〕 スポーツ指導者の養成・活用				
事業の概要	◆目的 町民のスポーツ振興と競技力向上、そして地域の実態や住民のニーズに応じた指導ができる人材を育成することを目的とし、三戸町スポーツ推進委員及び地域で活動するスポーツ指導者などの資質と指導力を高める研修を実施する。 ◆事業費 1, 0 5 2千円（財源 一般 1, 0 5 2千円）			
実 績	◆スポーツ推進委員の研修 （１）三八地区スポーツ推進委員研修会参加 （２）青森県スポーツ推進委員実技研修会参加 （３）三戸町スポーツ研修会（三戸町体育協会主催）参加 ◆各種スポーツ大会等におけるスポーツ推進委員による実技・ルール指導及び運営補助等 （１）総合優勝制町内対抗スポーツ大会（運営補助） （２）桜まつりマラソン大会（運営補助） （３）町内会へのスポーツの指導及び普及			
成果と課題	◆成果 ・三戸町スポーツ推進委員が各種研修会等に参加し、資質の向上を図ることができた。 ・三戸町スポーツ推進委員が教育委員会主催の各種スポーツ大会において、ルール説明や実技指導を行ったり、大会運営の補助等を行うことにより、円滑な大会運営をすることができた。 ・町内会から派遣要請を受け、スポーツの指導等を行うことにより資質と指導力を高めることができた。 ◆課題 指導者の資質の向上を図り、より一層生涯スポーツの推進を図っていく必要がある。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔フ〕 勤労者体育施設管理運営（武道館・サンスポーツランド）					
事業の概要	◆目的 町民の生涯にわたるスポーツ振興を図るため、武道館・サンスポーツランドを適切に維持管理し、快適で使いやすいスポーツ活動場所を提供することを目的とする。 ◆事業費 6, 913千円（財源 一般6, 913千円） ◆サンスポーツランド使用料収入額91千円				
実績	◆（１）武道館利用者数 2, 775名（26年度： 2, 293名） （２）サンスポ利用者数 13, 939名（26年度：14, 937名） 内訳 テニスコート 322名 野球場 13, 617名				
成果と課題	◆成果 学校体育や部活動、町民の健康づくり、各種大会の開催など多様な活動場所として有効に使用されるとともに、身近で気軽に利用できるスポーツ施設として、多くの住民に利用されている。 ◆課題 武道館は建築から33年経過し、老朽化が見え始めていることから修繕等により適切な維持管理に努める必要がある。				
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小		

〔ヘ〕 スポーツ少年団の育成支援					
事業の概要	◆目的 子ども達がスポーツに親しみ、スポーツを楽しみながら、仲間との交流を図ることにより、青少年のスポーツの振興を図ると共に心身共に健康な青少年を育成することを目的に、スポーツ少年団活動を支援する。 ◆事業費 80千円（町体育協会80千円）				
実績	◆（１）各種競技会への選手派遣 （２）スポーツ少年団認定員養成講習会への参加（4名参加） （３）平成27年度登録団数 8団体 登録団員数 202名 指導者数 43名（認定員 23名）				
成果と課題	◆成果 ・ミニバスケットボールの三戸fines（女子）、サッカーの三戸カーネリアンズが三戸郡予選大会において優勝、準優勝の成績を残し、県大会へ出場した。 ・無資格指導者が認定員養成講習会を受講し、資格を取得し指導者としての資質の向上を図ることができた。（4人） ◆課題 ・今後も資格なし指導者に対し、積極的に認定員養成講習会へ参加するよう促していく。 ・少子化により学校では部活動が困難になってきている。（チームが組めない、種目が限定される等）このような状況は今後も進んでいくと思われるため、子ども達が様々なスポーツ活動に参加できるよう、より一層スポーツ少年団活動を支援していく必要がある。				
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小		

〔ホ〕 体育館等管理運営（町民体育館・松原運動公園）				
事業の概要	◆目的 子どもから高齢者まで、生涯にわたり長く、スポーツやレクリエーションに親しむことができるよう、体育館及び松原公園の適正な維持管理を行う。 ◆事業費 松原運動公園維持管理費 1,944千円 ◆町民体育館使用料収入 111千円			
実績	◆町民体育館 年間利用者数 13,942人（平成26年度 12,961人） ◆松原運動公園 ・樹木剪定及び除草等の実施（事業費1,620千円） ・陸上競技場・テニスコート整備（事業費 324千円）			
成果と課題	◆成果 ・町民体育館は建築後47年経過し老朽化しているが、適切な維持管理に努めており、支障なく使用することができた。 ◆課題 ・修繕が必要とされるものが数多く出てくると思われるので、今後も適切な維持管理が必要である。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔マ〕 アップルドーム管理運営				
事業の概要	◆目的 町民の生涯にわたるスポーツ及び文化活動の振興を図るため、アップルドームの適切な維持管理を行い、快適で使いやすいスポーツ及び文化のための活動場所を提供することを目的とする。 ◆事業費 20,669千円（財源 一般20,669千円） ◆使用料収入 677千円（平成26年度 697千円）			
実績	◆概要 ①学校部活、住民の健康づくり、若者のスポーツ活動、レクレーション、各種スポーツ大会、集会等の円滑な使用に供した。 ②施設内清掃、整理整頓、施設周囲の除草等清掃の徹底をはかり、常に快適な利用に供するための適切な施設管理を行った。 ③利用者数 46,237人 主な利用施設 アリーナ（28,647人）、トレーニング室（4,584人）、調理室（1,471人）、ほのぼの館（2,923人）、職業相談室（4,644人） ④町民に職業紹介の機会を提供するための職業相談室（八戸公共職業安定所の分室）開設のため、無料で施設を提供している。同相談室は多くの住民に利用され、その求職活動に寄与している。			
成果と課題	◆成果 ・小中高の部活動や住民の健康づくり、若者の体力づくりや仲間同士のレクリエーションの場など多様な活動場所として有効に使用された。雨天時や冬季のスポーツ活動の場として有効に利用されている。 ・農林商工まつりや敬老会など、町の大規模なイベントには欠かせない施設であり、有効に活用されている。 ◆課題 ・トレーニング室は、多くの住民に利用されているが、トレーニング器具には老朽化したものが多く、故障により使えないものや十分に機能を発揮できないものがある。既に制作メーカーが無くなり、修理不能のものもあり、十分なサービスを提供できなくなっているため、計画的に機器の整備が必要である。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	平成28年度は、トレーニングマシン1台を新規購入予定である。以後、毎年、計画的な機器の更新を目指す。

(7) 芸術・文化活動の充実と文化財の保存

〔ミ〕 三戸町立版画工房運営				
事業の概要	◆目的 文化の町づくりの充実振興を図り、文化事業の一環として版画創作活動の進展を目的とする。 ◆事業費 2 1 3 千円（一般財源 2 1 3 千円） ◆使用料収入 1 7 千円			
実 績	利用回数	2 3 回	利用者総数	3 8 名
	4 月	1 回	2 名	(町内 2 名)
	5 月	1 回	3 名	(町内 3 名)
	6 月	2 回	5 名	(町内 4 名) (八戸市 1 名)
	7 月	1 回	3 名	(町内 3 名)
	8 月	1 回	3 名	(町内 3 名)
	9 月	2 回	4 名	(町内 4 名)
	1 0 月	8 回	1 0 名	(町内 1 0 名)
	1 1 月	6 回	6 名	(町内 6 名)
	1 2 月	0 回	0 名	
	1 月	0 回	0 名	
	2 月	0 回	0 名	
	3 月	1 回	2 名	(町内 2 名)
成果と課題	◆成果 版画設備が整っているため版画愛好家に親しまれている。 ◆課題 利用者がごく少人数に限られており、今後の利用者増が見込まれないことから運営方法の検討が必要である。			
事業の方向性	継続 改善	○ ●	拡充 縮小	

〔ム〕 芸術文化団体等補助事業													
事業の概要	◆目的 芸術文化活動の振興を図るため町内の芸術文化団体に補助金を交付する。 ◆事業費 420千円（財源 一般420千円）												
実 績	◆概要 <table><tr><td>団 体</td><td>主な事業</td><td>補助金額</td></tr><tr><td>三戸町文化協会</td><td>三戸町総合文化祭の開催・後継者育成</td><td>400千円</td></tr><tr><td>三戸町風づくりを楽しむ会</td><td>風作り講習会の開催（6回実施）</td><td>20千円</td></tr></table>				団 体	主な事業	補助金額	三戸町文化協会	三戸町総合文化祭の開催・後継者育成	400千円	三戸町風づくりを楽しむ会	風作り講習会の開催（6回実施）	20千円
団 体	主な事業	補助金額											
三戸町文化協会	三戸町総合文化祭の開催・後継者育成	400千円											
三戸町風づくりを楽しむ会	風作り講習会の開催（6回実施）	20千円											
成果と課題	◆成果 ・芸術文化団体へ補助金を交付することにより、地域の文化および伝統芸能の振興を図ることができた。 ◆課題 ・三戸町総合文化祭は、会員数の漸減や高齢化等に伴い出品点数も少なくなっている。各文化団体とも会員の増強と後継者の育成を図っていく必要がある。												
事業の方向性	継続 改善	☐ ☒	拡充 縮小	☐ ☐									

〔メ〕 三戸町文化賞表彰				
事業の概要	◆目的 三戸町文化賞表彰規則に基づき、当町の芸術文化の振興発展のため功績のあった個人・団体又は創作活動において優秀な成績を収めた個人・団体を表彰するとともに、町民へ受賞者を紹介し、町全体でその功績を讃えるものである。 ◆事業費 70千円（財源 一般70千円）			
実績	◆【文化功労賞】 2個人 【文化賞】 6個人 【文化奨励賞】 26個人 1団体 合 計 34個人 1団体			
成果と課題	◆成果 ・各種文化・芸術等の分野において指導者として貢献した方、あるいは創作・制作・演技・演奏活動等で優秀な成績を収めた方々を表彰し、町広報誌等により広く町民に周知することにより、芸術・文化活動へのさらなる意欲の向上に寄与すると共に町民の文化・芸術に関する興味・関心の拡大につながった。 ◆課題 ・推薦及び審査事務を円滑に進めるため、表彰基準をより明確に、かつ、解りやすく改める必要がある。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔モ〕 三戸城跡発掘調査事業				
事業の概要	◆目的 三戸城跡の学術的調査を通して、郷土の歴史の検証と文化財の保護を行う。 （平成16年度から継続実施中） ◆事業費 1,840千円（財源 国838千円・一般1,002千円）			
実績	◆三戸城跡「糠部神社境内（一門屋敷跡）」の精密調査 ①【文化層の掘削調査】埋蔵文化財が包蔵する地層の保存状況確認調査 ②【土塁周辺の現況確認調査】土塁（区画・防御のための盛土遺構）の保存状況調査 ③【遺構の覆土掘削調査】調査中に発見された柱穴遺構等の調査 ●調査期間：平成27年4月1日～平成28年3月31日			
成果と課題	◆成果 ①調査区5箇所において試掘を実施し文化層の保存状況を確認した。結果、当該調査区は極めて保存状況が良好であることが判明した。 ②土塁に生える支障木や草の除去を西側全域において実施した。結果、ケヤキ御門跡付近の土塁上端から礎石と考えられる大礫を検出した。 ③試掘箇所において文化層が確認できる面まで地層を掘削調査した。結果、数十cm大の柱穴遺構を十数基確認した。 ◆課題 ・三戸城跡の国指定史跡を目指し、学術調査を開始してから今年度で12年になる。今後は調査で得られた結果をまとめながら、国指定へ向けて関係団体と協議し、申請作業を進めていきたい。 ・今年度実施した調査区は、保存状況が良好であることが判明しており、平成28年度以降も当該地区について発掘調査を実施し、建物跡等重要遺構の検出に努める。 ・調査の内容が多岐にわたるため、協力者を得て分業する等、調査体制の拡充が必要である。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔ヤ〕 歴史民俗資料館運営事業				
事業の概要	◆目的 郷土の文化財を収集・保管・調査研究するとともに、展示して一般公衆の観覧に供する。 ◆事業費 6, 2 1 3 千円（財源 一般財源 6, 2 1 3 千円） ◆入館料収入 5 3 4 千円			
実績成果と課題	◆全体の実績 ・期 間：平成27年4月1日～同年11月30日（延べ209日間） ・入館者数：3, 1 7 7 人（前年比-671人減少） ◆資料館解説員の設置（土日・祝日） ・設置日数 7 3 日 ・解説人数 1, 3 2 8 人 ◆終戦70年企画展 ・名称：「モノが伝える戦争の記憶」7/18～8/30（入館者数：656人） ・内容：春の展示をさらに充実させる形で、三戸町における戦時下の様相を紹介した。 ◆成果 ・当町の歴史、文化について、多数の人へ情報提供することができた。 ◆課題 ・当館は所蔵資料が多く、収蔵庫内は歩く隙間がほとんどない。そのため、企画展を実施するたびに、入替作業に多くの時間を要している。また、資料保存の観点からも、適度なスペースが必要である。以上のことから、他の保管場所の確保等も検討する必要がある。 ・民具のコーナーを中心に、見やすい展示の工夫が必要である。 ・全体の展示構成について、更に分かりやすいものへ改善していく必要がある。 ・施設が老朽化しているため、修繕を継続して実施する必要がある。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔ユ〕 地域学習サポート事業				
事業の概要	◆目的 郷土の歴史や文化に関する多様な学習プログラムを設定し、各種団体の地域学習に関する支援を行う（小中学校の立志科や社会科等への出前授業等）。 ◆事業費 0 千円			
実績	①「授業で使える地域資料」 三戸町小中学校社会科部会（10人） 8月5日 ②「鎧のつくり」 夏休み体験事業（小学生10人、一般7人） 8月11日 ③「三戸城跡の歴史」講演 鷗盟大学の研修（50人） 8月25日 ④「長く続いた戦争と人々の暮らし」（お話し会） 三戸町内小学4年生（75人） 8月28日 ⑤「馬場のぼる縁の地を訪ねて」講演 八幡平市立図書館主催の一般を対象とした研修（30人） 10月13日			

	⑥「三戸城跡の歴史・馬場のぼる」講演 八戸市読書会 (31人) 10月16日 ⑦「長く続いた戦争と人々の暮らし」学習支援 斗川小学校6年生 (6人) 11月27日 ⑧「日本刀と日本人」立志科 土曜塾生徒 (23人) 1月9日 ⑨「古い道具と昔の暮らし」学習支援 斗川小学校3年生 (7人) 1月27日 ⑩「古い道具と昔の暮らし」学習支援 三戸小学校3年生 (67人) 2月8日 ⑪「古い道具と昔の暮らし」学習支援 福田小学校3年生 (31人) 2月17日		
成果と課題	◆成果 ・郷土学習を行うことで、郷土に対する理解や愛着心を育むことができた。 ・体験活動が主体となる授業のため、より高い学習効果が望める。 ・地域学習を支援するため、町が所有する資料や情報について、「自然」「考古」「歴史」「民具」等の種類別に分類整理して教材化を進めている。これにより、小中学校の単元に合わせて学習支援ができるなど団体の要望について、より具体的に応えることが可能となった。 ・小学3年生の社会科単元「古い道具と昔の暮らし」をはじめとした要望が多い授業については、昨年度の課題にあった「授業のパッケージ化」を実行していたことから、準備時間を大幅に短縮することができた。 ・体験型の授業メニューを今年度は2つ追加し、更に内容を充実することができた。 (追加授業メニュー:「日本刀と日本人」・「鎧のつくり」) ◆課題 ・小学3年生の社会科単元「古い道具と昔の暮らし」での出前授業は、本物の資料を使用体験できることから、高い学習効果が認められており、団体からの要望が多くなってきている。今後は、使用によって民具が破損することもあるため、学習用資料として、必要な古民具の補充をする必要がある。 ・当該事業で最も要望が多いものは、三戸南部氏と三戸城跡についてであるが、現地を訪れることができない授業の場合は、移動式のジオラマを作るなど必要な教材の充実に努めていきたい。 ・縄文時代を対象とした授業はカリキュラムの都合上、4月初旬に限定されるが、年度当初は学校が繁忙期のため、機会の提供を逃してしまうことが多い。 ・中学校からの要請がほとんどないので、情報発信に努める必要がある。 ・団体からの実施要望が増加傾向になっているため、解説を補助するための説明パネル等を作成するなど教材を充実していく必要がある。また、要望が多い授業についてはパッケージ化・スリム化を進め、準備が簡便にできる工夫をしていく必要がある。		
事業の方向性	継続 ☐ 改善 ☐	拡充 ☐ 縮小 ☐	体験型の学習を充実させるため、今後一般住宅で不用となった道具や古民具の収集に努める。